

特 72

125

梅村甚太郎著

常用救荒飲食界之植物誌

第六編

發行所 名古屋 永昌堂



301667-001-4

特72-125

常用救荒飲食界之植物誌 第6編

梅村甚太郎

M39.6

CAQ-0001



特72
125

緒

言

一、本書ハ日常飲食ニ供スル米麥菜菓ノ類ハ勿論、高山ノ頂ニ生ジ、深海ノ底ニ生ズル草木ト雖、皆飲食ニ供シ得ル品類ハ悉ク之ヲ記載スルノ目的ヲ以テ編著セルモノナリ。而シテ其遺脱セルトコロノモノヲ待チテ之ガ増補ヲナサムコトヲ期ス。

二、日常飲食ニ供スルモノ并ニ救荒ノ用ニ供シ得ベキ草木ハ數多キコトナレバ、全部ヲ二十篇ニ分チ漸次ニ之ヲ出版スルモノナリ。

三、書中ノ草木ニハ精確ナル自然分類法ニヨリテ、同類ヲ集メ、異類ヲ分チ、各類皆其形狀、花期、産地等ヲ記載シタレバ、普通植物ノ學ヲ修ムルモノニ向ヒテモ多少ノ參考トナルベシト信ズ。

四、書中ノ草木ニハ悉ク、學名、漢名、和名及ビ多クノ異名、方言等ヲ記入セリ。殊ニ異名、方言等ヲ記入セルハ各地方ノ研究者ノ一助トモナラムカト思ヒテナリ。而シテ漢名ハ今日ニアリテハ無用ナリト言フモノアレドモ、地方ノ人々ハ尙漢名ヲ知リタシト云フモノ多數ナレバ可成精確ナリト思フモノハ參考ノ爲メニ之ヲ記載スルコトナセリ。

五、書中處々ニ詩歌ノ如キモノヲ挿入セルハ讀者ノ倦怠センコトヲ恐レテナリ。拙キ料理ノ方法マデ記述セルモノ亦コレガ爲メナリ。

六、飲食ノ傍、藥用ニ供シ得ル品類ニハ書中、其次第ヲ附記セリ。但シ專ラ藥用ニノミ供スル品類ハ總ベテ之ヲ除ケリ。コレ他ナシ、藥用植物ニ關シテハ他日更ニ一書ヲ公ニセムト期スレバナリ。

明治三十九年六月十日
著者識

明治三十九年六月十日

著者識

常用飲食界之植物誌

第六篇目次

薔薇科

きんみつびき	頁	りんが	九
ほけ	一	紅王	
くさげ	一	紅王	
くわりん	一	紅王	
まるめろ	二	紅王	
へびいちご	二	紅王	
だいこんさう	二	紅王	
しろばなへびいちご	三	紅王	
ならんだいちご	三	紅王	
びば	四	紅王	
さんざし	四	紅王	
なんきんなくまご	五	紅王	
なくまご	五	紅王	
なし	七	紅王	
コヤナシ			
松尾ナシ			
水ナシ			
大場ナシ			
石ナシ			
ペにりんご			

すみ	十一	紅王	九
おほすみ	十一	紅王	
やまなし	十二	紅王	
あづきなし	十二	紅王	
ひまつか	十二	紅王	
かばらさいご	十二	紅王	
つちぐり	十三	紅王	
なへびいちご	十三	紅王	
みつばつちぐり	十三	紅王	
あんず	十五	紅王	
ウメアズ	十五	紅王	
シロアズ	十五	紅王	
大アズ	十五	紅王	
すし	十六	紅王	
ウラベニスモ	十六	紅王	
アサモ	十六	紅王	
ボタンキヤウ	十六	紅王	
し	十六	紅王	
ゲンハイモ	十六	紅王	
イツサイモ	十六	紅王	
シロモ	十六	紅王	
ケモ	十六	紅王	
シロモ	十六	紅王	
シロモ	十六	紅王	

フェモ	十九	紅王	
ハ、キモ	十九	紅王	
天津水蜜桃	十九	紅王	
つばいも	十九	紅王	
にわうめ	十九	紅王	
ニハザクラ	十九	紅王	
うめ	十九	紅王	
ブンゴウメ	十九	紅王	
ザロンウメ	十九	紅王	
紅梅	十九	紅王	
ふだん梅	十九	紅王	
早咲の梅	十九	紅王	
小川梅	十九	紅王	
アサヤク	十九	紅王	
ハナザロン	十九	紅王	
野梅	十九	紅王	
水仙梅	十九	紅王	
道場の梅	十九	紅王	
アズウメ	十九	紅王	
やまさくら	廿三	紅王	
ふしのざくら	廿三	紅王	
ささざくら	廿五	紅王	
ちやうじざくら	廿五	紅王	
うはみづざくら	廿五	紅王	
ひびんざくら	廿六	紅王	
まめざくら	廿六	紅王	
ふそのうはみづざくら	廿六	紅王	
いざざくら	廿七	紅王	
みやまさくら	廿七	紅王	
いわざくら	廿八	紅王	
みやまいねざくら	廿八	紅王	
ゆすらうめ	廿八	紅王	
てりばのいばら	廿九	紅王	
ふゆいちご	三十	紅王	
にがいちご	三十	紅王	
びらふざいちご	三十	紅王	
きいちご	三十	紅王	
たちいちご	三十	紅王	
くまいちご	三十	紅王	
ほうろくいちご	三十一	紅王	
なはしろいちご	三十一	紅王	
くらいちご	三十二	紅王	
うらじろいちご	三十二	紅王	
かいちご	三十二	紅王	
ばらいちご	三十三	紅王	
くさいちご	三十三	紅王	
われもかう	三十三	紅王	
たうちさう	三十四	紅王	

常用飲食界之植物誌 第六篇

梅村 甚太郎 著

薔薇科

(1) きんみつびき

Aegiphonia plicata Ledeb.

一名しつやまぐらト云フ。漢名龍芽草(救荒本草)。
草野ニ多ク自生スル宿根草ニシテ莖高二三尺ニ達ス。
葉ハだいこんさうニ似テ羽状複葉ヲナシ往々鋸アリ、
萎陸菜ノ大葉ナルモノニモ似タリ。初メ叢生シ夏月ニ
至リ莖ノ上部一尺斗リニ穂状ヲナシテ黄色五瓣ノ小花
ヲ着ケ、花後ニ出来タル果實ニハ多クノ小鈎ヲ生シ動
物ノ身体ニ附着シ以テヨク遠近ニ散布ス。
救荒植物トシテ其子ヲ採リ或ハ搗キ或ハ磨シテ麵トナ
シ之ヲ食フ。

(2) ぼけ

Cydonia japonica Pers.

薔薇科

漢名木瓜。高一丈ニ達スル落葉灌木ニシテ寧保年間
渡來セリ。葉ハ長橢圓形ニシテ海棠ニモ似又桃葉ニモ
似タリ。花ハ海棠ノ如クニ其梗長カラズ。春未ダ葉ヲ
生ゼザルトキ花ヲ開ク、頗鮮美ナリ。子房ハ五室、花
後結實スレバ長二寸余ニ達シ其末凹ニシテ内ニ鼻アリ
果形椗榎ニ似ルモノ小ク、味モ亦劣レリ。
果實ヲトリ塩ニ漬ケ干シテ食用ニ供ス。

(3) くさげ

Cydonia japonica Pers. var. pygmaea Max

或ハ單ニぼけ、トモ云ヒ、又のぼけ、こぼけ、しご
み(奥州)、ちくうめ(肥前)、ぢなし(常陸)、ノ稱アリ
漢名椗子。山野ニ多シ。通常高一尺余ニ達シ叢生ス。
廣野ノモノハ屢々三四寸ニ出デザルアルモ山中ニ生
ズルモノハ往々三四尺ニ至ルモノアリ。枝ハ刺多ク。
葉ハ倒卵形ニシテ小ク、春新葉ヲ出シ後花ヲ開ク。花
ハ小ニシテ五瓣、大サ八分許、通常紅黄色、夏秋モ不
時花アリ、花後圓實ヲ結ビ夏ニ至リテ熟ス、大サ寸許
頭尾共ニ凹ナリ。一種白花ノモノアリ、花月ニテ白ぼ
けト呼ブ。
果實ハ味酸シ、小兒採リ食フ。多食スレバ齒ヲ損フ、

(4) くわりん

Q. sinensis Thoun.

又からなし、さげけ等ト呼ブ。漢名榲桲。吾邦及支那ニ多ク産ズ。落葉喬木ニシテ幹高二三丈ニ達スルモノアリ。樹皮ハ大木ニナレバ毎年一二寸毎ニ剝脱シ其痕、雲紋ヲ呈シテ美ナリ。四五月頃葉ト共ニ花アリ葉ハ林檎葉ニ似テ長大、鋸鋸齒アリ、質堅クシテ互生ス。花ハ五瓣淡鮮紅色ナリ。秋末ニ至リテ果ヲ熟ス。倒卵圓形ニシテ長三寸許アリ恰モ小キ甜瓜ノ如ク凹凸アリテ正カラズ。淡黄色ヲ呈シテ芳香アリ。

鞣酸ニ富ム故ニ味酸澁ニシテ生食スルニ適セズト雖、冬ニ至レバ微ク甘味ヲ帶ブ。然レ燒キ又ハ蒸シテ食トス。又汁ヲ絞リ生薑汁及ビ砂糖ヲ和シ練リテ瓜梨膏ト名ケ古來痰嗽ヲ治スルニ供セリ。

(5) まるめろ

Q. vulgaris Pers.

又まるめる、まろめいら、たにめろ、まるうめ(陸中)、まるめ(全上)、ぼうかい(仙臺)、ぼうかい梨(全上)等ノ異名アリ。漢名榲桲。東北地方ニ多ク西南地方ニハ少シ。又支那ノ北部ニモ産ズ。北國筋ノモノハ

色圓クシテ微欠ス、萼外更ニ三四ノ綠色苞アリテ末端



潤シ。雄蕊ハ二拾個ニシテ黄葯ヲ着ケ、雌蕊ハ多數ニシテ各一個ノ胚珠ヲ有ス。果實ハ肉質ノ花托ヲ有スル

ト蓬蘽ノ如ク紅熟スレバ大サ六七分ニ達ス。果實ヲトリ生食ス。

(7) だいこんさう

薔薇科

形大ニシテ味美ナリ。榲桲ニ類ス。幹高七八尺林檎ニモ似テ枝多ク叢生シ易シ。春月新葉ヲ生ズ。葉ハ林檎ノ葉ヨリ廣ク白毛アリ、互生ス。新枝ノ梢ニ花アリ其花直径寸ヲ起エ五瓣ニシテ水紅色ヲ常トスレモ間ニ白色ノモノアリ。花後果ヲ結ベハ果形圓クシテ外面ニ毛茸ヲ有シ且凹凸多シ、秋ニ至リ熟スレバ黄色微緑、香氣アリテ大サ二寸余ニ達スレモ榲桲ヨリハ小ナリ。果實ハ味酸澁ナレモ充分ニ熟スレバ稍甜味アリ、久シク貯フルニ足ル。多クハ果膏ヲ製シテ食用トス。薬用植物ナリ。

(9) へびいちぢ

Duchesnea indica Foek.

くらははいちぢ、からすのやまもよ、みつばいちぢ等ノ異名アリ。漢名ハ蛇莓ト稱ス。原野路傍等ニ自生スル草本ニシテ莖ハ直立スルコナク常ニ地ヲ這ヒ、地ニ接スル各節ヨリ根ヲ生ズ。新苗ハ秋月ニ生シ冬ヲ經テ枯ル、コナシ。葉ハ互生ニシテ長柄ヲ有シ、三個ノ小葉ヨリ成リ、粗キ鋸齒ヲ有ス。三四月頃葉腋ニ二寸許ノ梗ヲ出シテ各頂ニ一花ヲ着ク、花ハ大サ四五分アリ萼ハ五片ヨリ成リテ各片卵圓尖銳、花瓣ハ五片黄

Gemma japonica Thunb.

だいこんな(九州)、のだいこん(備後)、八丈草(近江)、こまつなぎ(大阪)等ノ異稱アリ。漢名水楊梅。莖二三尺ニ達スル宿根草ニシテ山野ニ自生ス。春ハ地ニ塌シテ叢生シ、夏月莖ヲ抽キテ枝葉互生ス。下部ノ葉ハ不齊羽狀複葉ニシテ稍繚亂葉ニ類シ、厚クシテ深綠色、柔毛アリテ澁刺ナリ。花ハ五瓣黄色下ニ重帯アリ、枝頭毎ニ一花ヲ着ク、雌蕊多ク、各一個ノ胚珠ヲ含有ス、花柱ハ花後大ニ伸長ス、果實ハ綠色ニシテ大サ三四分ニ達シ刺繚亂狀ヲ呈シ、中ニ多クノ種子ヲ藏ス根葉莖トモニ煮テ食フ、根ハ又薬用ニ供セラル。

(8) しろばなへびいちぢ

Fragaria elatior Ehrh.

四五寸乃至尺ニ達スル小草本ニシテ富士、日光、御岳等ノ諸高山ニ普通ナリ。全形和蘭莓ニ似テ小、葉背柄共ニ筆スベカラザル繊細ノ軟毛アリ。和蘭莓ノ如ク根際ヨリ絲蔓ヲ出シテ處々ニ葉ヲ生シ且ツ根ヲ下シテ苗ヲ分ツ。花ハ夏月ニ開キ五瓣白色大サ六七分。花ハ萼様ノ苞ヲ具ヘ、花柱ハ花後伸長スルコナク。各雌蕊ハ一個ノ胚珠ヲ含有ス。果實ハ肉質ノ花托ヲ有シ熟ス

レバ紅色ヲ呈ス。

熟シタル果實ヲトリ生食ス、味佳ナリ。

(9)をらんたいちご

F. virginiana Ehrh.

又西洋いちごトモ云フ。原舶來種ナレドモ現時ハ各地方ノ庭園ニ培養セラル。前者ニ似ルモ葉大ニシテ厚ク、莖モ亦太シ。葉柄長五七寸、一帯ニ三葉集リ各鋸齒アリ。葉背柄共ニ微ク纖毛アリ、四五月頃簇葉間ニ花莖ヲ抽クコト數寸乃至尺許。梢頭數梗ニ分レ每梗一小葉或ハ鱗狀苞アリテ上ニ五瓣ノ白花ヲ開ク。花モ果實モ前者ヨリ大ナリ。

紅熟セル果實ヲトリ好ミテ生食ニ供ス。又果膏ヲ製シ或ハ酒ヲ醸スベシ。

成分

種類	水分	蛋白質	游離酸	糖分	其他無窒素物	木纖維	灰分
御逸産	八七、六	〇、四	〇、三	九、三	一、四	二、三	〇、八一
米國産	九〇、五	〇、九	〇、九	九、七	〇、五	一、四	〇、六一

(10)びは

Eriobotrya japonica Lindl.

○枇杷の實は藥と云へど多食すな

痰熱を病み脾胃を傷ム

(11)めんれし

Mespilus unguata (S.et Z.)

漢名山榿子。落葉灌木ニシテ高五六尺ニ至リ枝繁ク刺ヲ具フ。葉ハ長サ一寸許、楔形ヲ呈シ屢々三五岐ヲナシテ縁ニ鋸齒アリ。四五月頃新葉ト共ニ枝梢ニ白花ヲ簇生ス。單瓣白色ニシテ梅花ノ如リ、瓣ハ皆上ニ向ヒ、雄蕊ハ多シ。秋月果ヲ熟ス、形圓クシテ較扁ク大サ六分許、外皮ハ赤又黄ニシテ内ニ核アリテ牽牛子ノ如シ。

果實ハ味淡甘微酸ナリト雖、木瓜、榿榿ニ比スレバ稍美味ナリ。往時ハ收斂劑トシテ之ヲ藥用ニ供シ又魚毒ヲケスニ妙ナリ。

(13)なんきんなんやまざい

Pirusa grueilis S. et Z.

前者ニ似タル落葉木本ニシテ山中ニ自生ス。下部ノ上葉ハ上部ノ小葉ヨリ遙ニ小ク、托葉ハ著シク大ナルノ異アリ。且ツ葉ハ前者ヨリ短ク上部ニノミ鋸齒アリ

びやトモ呼ビこふくべトモ云ヘリ。漢名枇杷。本邦及ビ支那ノ原産地トス。常綠喬木ニシテ幹高二丈余ニ達ス。老樹ノ皮面ハ紫黑色ニシテ鱗狀ヲ呈シ板狀トナリテ剝離ス。葉ハ長橢圓形ニシテ大ク長サ通常五六寸時トシテ一尺ニ余ルモノアリ。先端尖リ粗鋸齒ヲ有シ葉面ノ横脈間ニ弛ミアリテ突出シ、葉裏ハ軟キ淡褐毛ヲ密布ス。冬月花穂ヲ抽キ單瓣ノ小白花ヲ簇生シ佳香アリ。通常六月頃ニ至レバ其果ヲ熟ス。果ハ金橘大ニシテ軟毛ヲ帶ビ微黄色ニシテ大サ七八分ヲ常トスレバ屢寸ニ達スルモノアリ。

熱シタル果實ハ味甘クシテ微ニ酸ヲ帶ビ佳果中ノ優品ナリ。葉ハ二三ノ藥品ヲ加ヘ煎テ枇杷葉湯ヲ製シ、夏日疫氣ヲ避クルノ藥トナス。

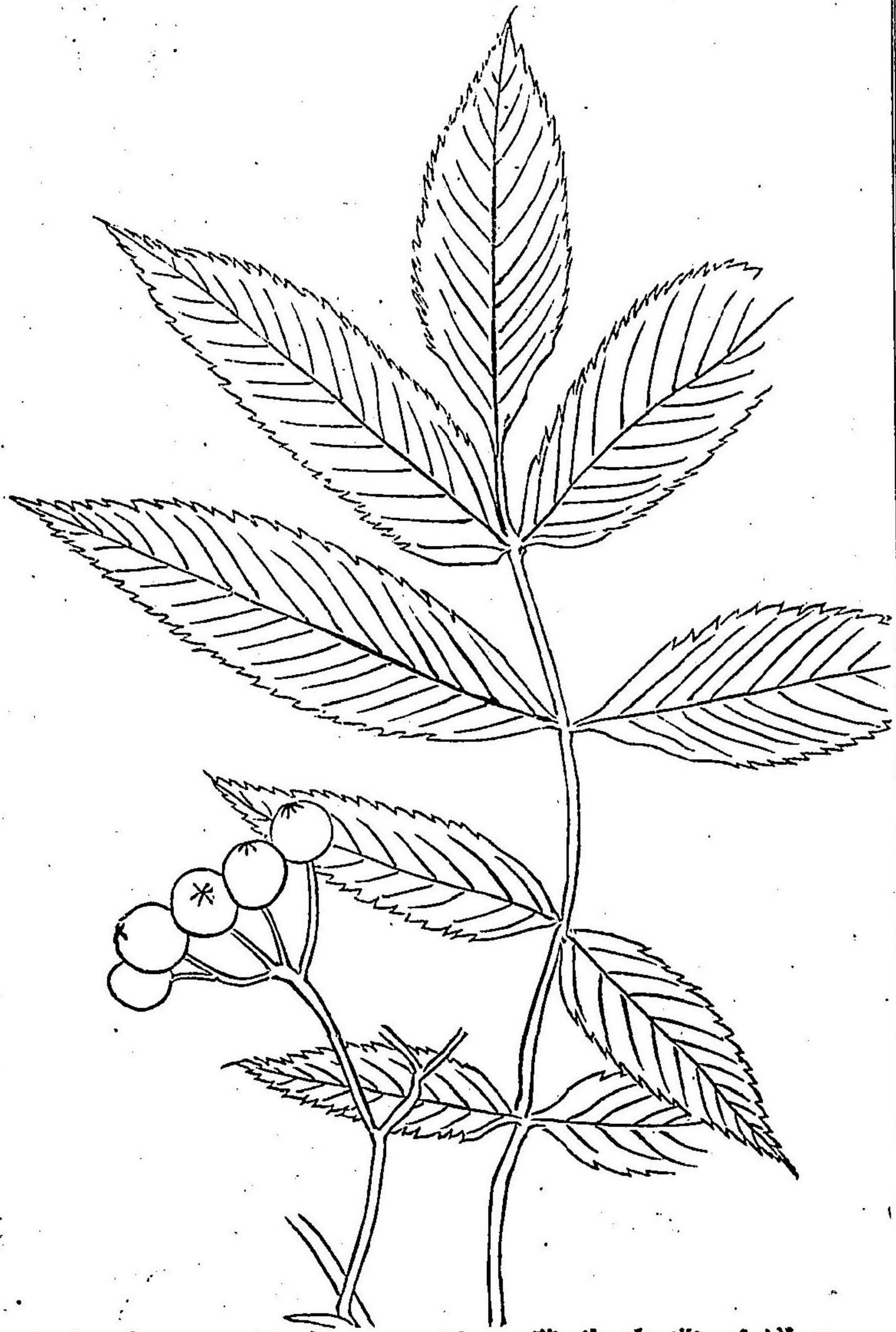
一種ヲうびハハ大實ノ品ニシテ大サ常種ニ二倍シ味モ亦佳ナリ。

枇杷 宋 宋 祁 有果産西蜀、作花凌早寒、樹繁碧玉葉、柯 豊黄金丸、 ○それ枇杷は渴きを止め肺を利し 吐逆を治して上熱を去る

秋月紅熟シタル果實ヲトリ食ヒ又葉ヲ救荒ノ用ニ供ス



(12) なまかまど
P. auquperia Gertm. var. japonica Max.



丹後ニ
テハいん
ばいと呼
ブ。漢名
花楸樹。
山野ニ自
生スル落
葉喬木ニ
シテ高二
三丈ニ達
スルモノ
アリ。樹
皮ハ帯灰
黒褐色ニ
シテ皮目
ニ斑多シ
。枝ハ褐
色ニシテ
滑ニ、葉
ハ互生、

奇數羽狀複葉ヲナシ、葉柄長サ四五寸、五六雙ノ小葉
ヲ有ス。小葉ハ長卵形ニシテ其邊緣ハ下部ノ外細銳ノ
鋸齒ヲ有シ、表面ハ濃綠色、裏面ハ淡綠色ニシテ平滑
、長サ一二寸、幅六七分、頂部ノモノ稍楕圓形、而シテ
托葉ハ細微ナリ。花ハ小クシテ白ク四五片頃開キ數多
、攢生シテ球狀ヲ呈ス。子房ハ充分ニ萼ノ筒部ニ着生シ
、花後ノ果實ハ熟シテ南天大トナリテ紅色ヲ呈スルモ
裂開スルコトナシ。
果實ヲトリ生食シ又葉ヲトリテ救荒ノ糧ニ充ツ。
(14) なし

P. sinensis Lindl.

わりのみ、わりのき(伊豫)等ノ方言アリ。漢名鹿梨
落葉喬木ニシテ本邦ニテハ栽培セザル地ナシ。天然ニ
任ズレバ幹高三四丈ニ達シ圍六尺ニ及ブモノアリ。樹
皮ハ赭黑色ニシテ淡綠色ノ斑點ヲ有シ粗糙ナリ。葉ハ
長圓形ニシテ鋸齒アリ。花ハ四月頃、葉ノ展クニ先チ
テ新芽ト共ニ七八梗ヲ抽キ五瓣五色、花瓣ハ圓形、萼
ハ五裂シ開花盛ナルニ及ビテ外反ス。雄蕊ニ拾余條、
萼ヨリ生テ、萼ハ淡紫色、花心五個ノ細柱ヲ抽キ、子
房ハ下位ナリ。品類多クシテ、果實ハ多クハ扁圓ニシ

テ黄灰色ヲ呈シ、淡褐色ノ斑點ヲ布ク、大サ二三寸ア
リ。園養ノモノハ通常枝ヲ剪縮メテ棚ニ作り横臥セシ
ム。果形大小一ナラズ、味モ亦良否アリ、生食ニ適シ
又乾製トナシ、果膏ヲ製シ、酒ヲ釀ス。此果ハヨク渴
ヲ止メ酒後ノ煩熱ヲ去ル。病人ニ宜キハ消梨ヲ最トス
梨ハ又皮ヲ去リ切りテ胡麻味噌ニ和ヘテ用フ。
(イ) ながなし、形圓ク皮ニ微赤ヲ帯ビ味佳ナレド
モ水ナシ。空閑ハモト筑前ノ地名、後諸處ニ移植ス
肥筑ノ名産ナリ。
(ロ) わをなし、形微ク長ク、皮色青ク味佳ナリ、
他種ヨリ熟スルコト早シ。
(ハ) 松尾梨、觀音寺梨ニ類シテ紫褐色、味甜脆、
水梨ニ似テ水ナシ、輕淡、雪ヲ嚼ムガ如ク、口ニ入
ルレバ輒チ消ユ。伊勢ノ名産ナリ。
(ニ) 觀音寺梨、青褐色味純甘、青梨ニ類シテ水ヲ
含ミ最脆シ、狀ハ青梨、水梨ヨリ小ナリ。近江觀音
寺村ノ原産ナリ。
(ホ) 水梨、形大ニシテ青梨ニ類シ、皮薄ク色ハ紫
ニ青褐ヲ帶ブ。味極メテ甜美ニシテ香アリ。且ツ水
漿多シ。甲斐、武蔵、駿河、伊豆ノ諸州ニ多シ。

(ハ)冬梨、皮色青褐、夏秋ハ味酸クシテ澁ブク、冬ニ至リテ熟スレバ甘脆微酸味フニ足ル。
 (ト)大場梨、出雲ノ名産ナリ、形圓大ニシテ水多ク香アリ、穢小ニシテ肉多シ、皮色黄ヲ帯ビテ微透ス。
 (チ)石梨、皮厚ク肉堅ク味テ甘カラズ酸カラズ但微澁ヲ覺ヘ口中ニ渣ヲ殘スヲ多シ。

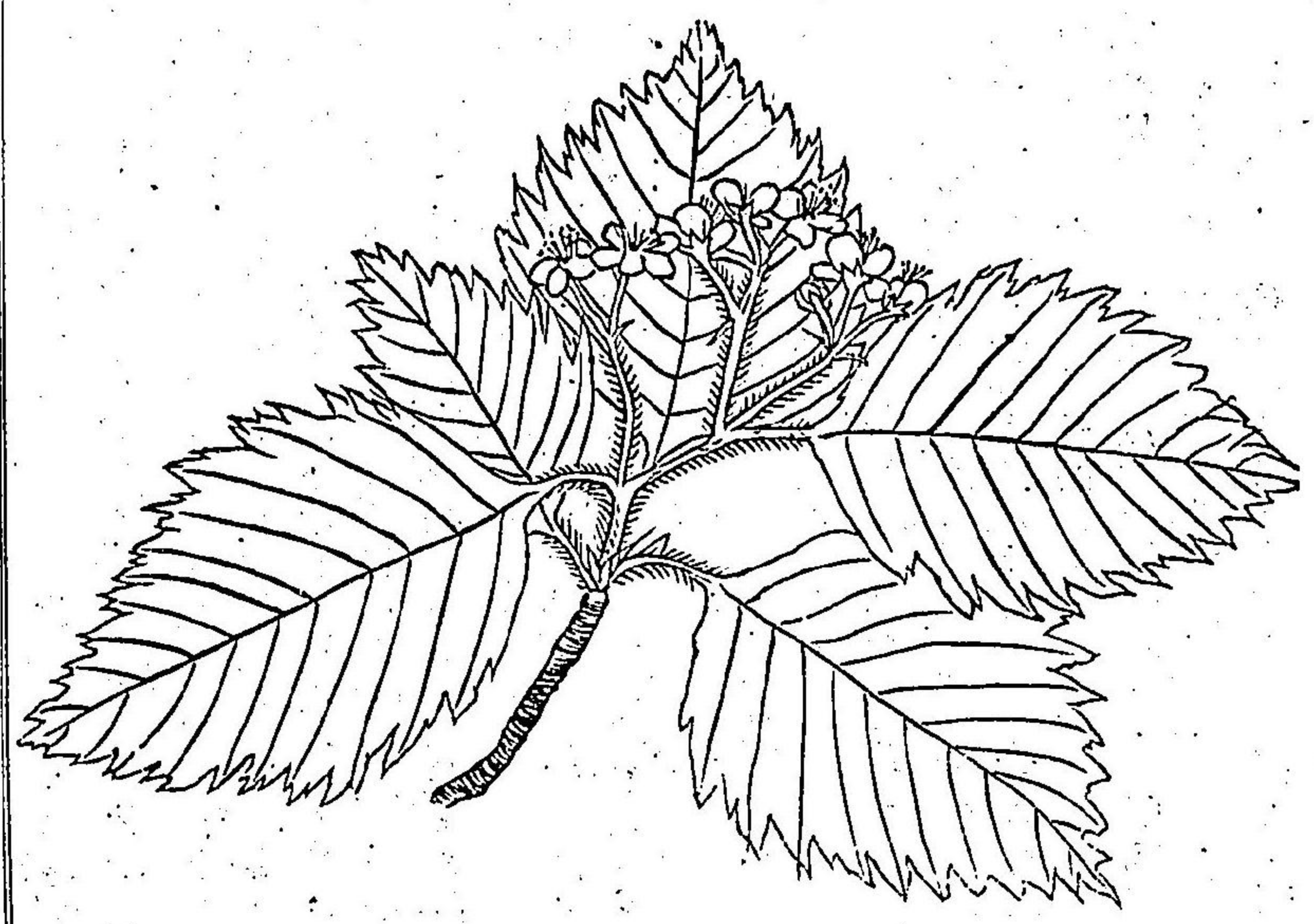
梨ノ成分

品種	水分	蛋白質	遊離酸	糖分	其他無氮素物	木材質	灰分
外國産	八三、〇三	〇、三六	〇、二〇	八、三三	三、五五	四、三〇	〇、三二

△やまなしの花の白雪ふる里の庭こそ更に冬こそもりなれ
 爲 實

△としふればかはらすながらつきなしの
 あらぬ物にも身こそなりぬれ
 衣笠内大臣

○なしはたゞ冷へ物なれば熱性の病にはみな用ひてぞよき
 ○梨の實を丸やさにして湯にてのめ



痰も治すればせきも去るなり
 ○ろれ梨は大小便を通ずれど
 多く食ふな中を冷すよ

○梨の花酒をさまして心腹の鬱氣をも去り下痢も止むる

○梨花 梁宣帝
 六合常流稱、南荒本足珍、綠葉已承露、紫實復含津。

○全 金 呂中孚
 等待清明得々芳、團枝晴雪暖生香、洗粧自在風流態、却笑紅深睡海棠。

(15) うらじろのみさ
 P. Aria. Ehrh. var. kamonensis Wall.

ごろべつさ(下野)、やまなし(大和)、等ノ方言アリ
 温帯ニ生ズル落葉喬木ニシテ各地ノ山中ニ自生シ、幹高四丈、圍六尺ニ達ス。樹皮ハ帶綠白赭黒色ニシテ光澤アリ、後ニ鱗狀ノ木皮ヲ成ス。葉形橢圓ニシテはしはみニ似、裏面ニ白毛ヲ密布シ、白キコト綿ノ如シ。

五月小白花ヲ開キ秋ニ至リテ果實ヲ成熟スレバ紅色ヲ呈シ、大サ梧桐ノ子ノ如シ。
 小兒熟シタル果ヲトリ食ス。

(16) べにりんご
 P. Malus L. var.

こりんご、あかりんご、りんざん、べにりんご(加賀)、べにこ(加賀)、りんざ(羽前、羽後)トモ呼ビナイ(和名鈔)トモ云ヘリ。漢名紫、林檎ノ種類ニシテ加賀、信濃、及ビ奥羽邊ノ寒地ニ多シ。形狀林檎ニ似テ葉細長シ。花ハ林檎ニ酷似シ、實ノ形大小一ナラズ、大ナルハ徑寸許アリ。秋月成熟スレバ内外共ニ深紅ニシテ柔軟ナリ。林檎ハ半分紅ク半分綠キモノナルニ此種ハ然ラズ、味モ較優ル。彼ハ貯ヘ置キテ腐リ易キモ此モノハ貯ヘテ久シキニワタルモ腐敗スルコトナシ果ヲトリ生食スルカ、ウスク切り乾シテ貯ヘ若クハ遠キニ送リテ菓ニ充ツ。

(17) りんご
 P. Malus L. var. tomentosa Koch.

蔷薇科

りうごう(和名抄)、わをりんご(加賀)トモ呼ブ。漢名林檎。落葉喬木ニシテ幹高丈余ニ達シ、枝柔弱ニシテ廣布ス。葉ハ楕圓ニシテ細鋸齒アリ。春四月頃葉出テ、大サ寸許ニシテ五瓣ノ白花ヲ開ク。蕾ノ色ハ紅色ナルモ開ケバ白色ニ紅暈ヲ帶ブ。夏末ニ果ヲ熟ス。種類多クレドモ吾邦在來ノ種ハ通常大サ寸許、正圓、向陽ノ方ノ鮮紅色ヲ粧フ。然レモ近頃舶載セル品種ニ至リテハ形色頗ル多様ナリ。

果實ハ味甘酸ニシテ生食スベク又切リテ乾シ用フベク又酒ヲ醸スベシ。林檎酒ハ酒精分少ク興奮劑トシテハ力弱キモ芳香美味ノ清涼劑タルヲ失ハズ。近頃一般ニ林檎ト稱スルモノ其數百ヲ以テ算フベシ今其重要ナル數品ヲ左ニ列記ス

- (イ) 國光、黄綠色ノ素地ニ赤色ノ絞條アリ、味優等ニシテ林檎中ノ第一位ヲ占ム。晩熟ナリ。
- (ロ) 紅王、黄色ノ素地ニ光輝アル深紅色ヲ呈シ、風味ハ國光ニツグ。晩熟ナリ。
- (ハ) 生娘、獨逸ノ原産。果中大ニシテ扁圓、黄色ニシテ紅線ヲ散布ス。中熟ナリ。
- (ニ) 紅絞、佛國種。果ハ中大ニシテ綠黄ニ紅色ヲ

薄ク切り、別ニめいけん粉若クハ通常ノ温飽粉ヲ卵ト和シタル中ニ鹽ト砂糖トヲ加ヘテ味ヲツケ、コレニテ濃キコロモヲ作り、切りオキタル林檎ヲコロモ衣ニテクルミ、油揚鍋ニ入レテ揚ゲルナリ。更ニ上品ヲ製セムニハ切リタル林檎ヲブランデイト砂糖トノ中ニ一時間程浸シオキ、別ニ卵黄一個トめいけん粉大匙二杯トヲ和シ、コレヲ牛乳ニテ練リ、相應ニ固クシ、卵白ヲ器中ニテ攪拌シ、十杯泡立チタル後、前者ニ混ゼ、コレヲ衣トスルナリ。

林檎ノ成分

品名	水分	蛋白質	遊離酸	糖分	其他無氮素物	木材質	灰分
歐洲産	八五、七	〇、三	〇、八	七、三	五、八	一、五	〇、〇
同乾品	三〇、五	一、二	三、六	三〇、〇	五、五	四、九	一、五

(18) すみ

P. Toringo Sieb.

こりんご、やつも、やぶりんご、こなし、やまなし(伊勢、志摩)、からつばう(伊豫)、ひめかいごう等ノ別稱アリ。山野ニ多シ、高一二丈、又小木ニテモ花實アリ、春月葉ト共ニ花アリ。四五花一繖ヲナシテ簇

蔷薇科

粧ヒ佳香アリテ美味ナリ。中熟ナリ。
 ● 柳王、米國種。果大ニシテ尖圓、滿面帶黄、鮮紅色ヲ呈シ、果皮薄ク、輸送スレバ傷キヤスシ。樹枝纖細ナルヨリ其名ヲ得タリ。晩熟ナリ。
 (ハ) 赤龍、米國種。果大尖圓、黄ニ紅條ヲ粧フ。晩熟ニシテ翌年五月マテ貯フヲ得。
 (ト) 紅魁、果大尖圓、鮮紅色ヲ帶ビ白粉ヲ布ク。魯國ノ原産ニシテ頗豊産ノ早熟種ナリ。
 (チ) 黄金丸、黄金色ヲ呈シ、最早熟ス。
 (リ) 丹頂、滿面鮮紅色ヲ呈シ、早熟ス。
 (ヌ) 甘、大形ニシテ青白ク、多漿ニシテ甘味ニ富ム、早熟ナリ。
 (ル) 陽面ノミ淡紅色ヲ呈スル中熟種ニシテ優品ナリ。

● 林檎ノ茶碗蒸、林檎ノ皮ヲ剥キ山葵卸ニテ摺リ、薯モ同ク摺リ合セ、葛粉ヲ水ニテトキ少シツ、入レテヨク混合シ鏗ノ煎汁ニ酒盞ト醬油トヲ適宜ニ入レ其汁ニテヨクノバシ、加料ハ見斗ヒニテ茶碗ニ入レ右ノ汁ヲ掛ケテ蒸スナリ。
 ● 林檎ノフライ、林檎ノ皮ヲ剥キ、心ヲ去リテ

生シ、小梗長一寸半許、綠色無毛萼筒中央括シ、萼五出披針狀ニシテ上面ニ浮毛アリ。花冠ハ白色時トシテハ粉紅ヲ帶ビ、林檎花ニ似テ小シ。海棠ニ似ルガ故ニひめかいごうトモ云フ。雄蕊ニ長短アリ、花絲白色、雌蕊四五個、白色ニシテ柱ノ下部合一シ、中部以上分離ス。葉形一ナラズ、最上葉ハ楕圓披針形ニシテ岐ナク、下位ノモノハ二又、三又ヲ分ツヲ常トス。新葉ハ細毛ヲ有スレバ、老葉ニ至レバ殆ド無毛トナル。果實ハ櫻實ニ類シ秋ニ至リテ紅熟ス。霜後果ヲトリ生食スルニ甘酸甚ダロニ適ス。

(19) 大すみ

P. Zumi Matsumura.

すなし、かたなし(北國)、こなし(飛彈)等トモ呼ブ。漢名紅棠梨(天台山方外志)温帯ニ生ズル落葉喬木ニシテ幹高三丈、圍二尺ニ達ス。樹皮ハ帶灰褐色ニシテ初夏梢頭ニ五瓣ノ帶紅白花ヲ開キ、後圓實ヲ結ビ霜ヲ經テ落ツ、大サ七八分アリ、一方深紅色ナリ。葉ハ圓大ニシテ鋸齒ヲ有シ、裏面ハ茶褐色ヲ呈ス。果實ハ味甘酸澁ナレバ煮テ食フベク、又乾シテ貯フベシ

俗ニ和ノ山榎子ト云フ。

(20) やまなし

P. calleryana Dene.

こなし、ゆでなし(出雲)、いぬなし(美濃)、ありのみ(京都)等ノ稱アリ。漢名鹿梨。山中ニ自生ス。梨ノ原種ニシテ樹高五六間ニ達シ、圍六尺ニ至ルモノアリ。枝葉、梨ト異ルコトナシ。葉ノモトニ一本ツ、ノ針アリ。春時未ダ葉ヲ生ゼザル以前ニ白花ヲ開クノ如シ。實ノ大サ徑七八分、初澁ク、冬ニ至リ熟スルモ味不佳ナリ。ヨリテ燻デテ食フ、故ニゆでなしト云フ。マダ未熟ノ果ヲトリ箱ニ納メオキ黒變スルヲマチテ出シ食フ。

(21) わづななし

P. Miyabe Sargent.

ばかりのめ、かたすみ(會津)、しらしで(琉球)、かたすぎ(北海道)、いぬなし等ノ異名アリ。温帯ニ生ズル落葉喬木ニシテ本邦東北部及ビ北海道ニ多シ。東海畿内ノ山中ニモ産ス。高二三丈ニ達シ圍二三尺ヲ常ト

スレドモ、老ナルモノニ至リテハ高六尺圍七尺ニ達スルモノアリ。樹皮ハ帶緑茶黑色ニシテ枝條ハ細ニ暢張シ、赤褐色ニシテ皮目斑ヲ呈シ、宛然權衡ノ目盛リノ如シ。故ニばかりのめトモ呼ブ。葉ハ互生シ

(22) かまつか

Pourthiana villosa Dene.

ラシころし、なつゆき、こしで(安房)等ノ異稱アリ。温帯ノ山野ニ自生スル落葉木本ニシテ幹高一二丈時トシテハ三丈ニ達シ圍三三尺ニ及ブ。樹皮ハ暗灰色、葉ハ倒卵形ニシテ先端尖リ、細鋸齒ヲ有シ、長二三寸

花ハ小ク五瓣白色ニシテ五月頃枝梢ニ集リテ傘形ニ開ク。子房ノ上部ハ萼ニ着生セズ、實ハ十月成熟シ楕圓形ニシテ紅色ヲ呈シ大サ二三分許、材ハ頗ル堅クシテ鎌ノ柄トナスニ適ス、ヨリテかまつかノ稱アリ。又曲ゲテ牛ノ鼻木ニ用フ、故ニうしろしトモ云フ。

(23) かけすくす

Potentilla chinensis Ser.

漢名委陸菜(救荒本草)、長サ四五寸ヨリ尺余ニ達スル草本ニシテ河原々野ニ多シ。葉ハ複葉ニシテ小葉モ亦羽狀ニ分裂シ、其裏面ハ白シ。花ハつちぐり、をへびいちごト同様ナル形ニテ夏秋ノ際ニ開キ其總苞ハ甚ダ狭ク。花冠ハ五瓣黄色ニシテ萼ノ裂片ニ互生シ、雄蕊ハ多數アリテ花弁ヨリ短シ。

(24) つちぐり

薔薇科

漢名委陸菜(救荒本草)、長サ四五寸ヨリ尺余ニ達スル草本ニシテ河原々野ニ多シ。葉ハ複葉ニシテ小葉モ亦羽狀ニ分裂シ、其裏面ハ白シ。花ハつちぐり、をへびいちごト同様ナル形ニテ夏秋ノ際ニ開キ其總苞ハ甚ダ狭ク。花冠ハ五瓣黄色ニシテ萼ノ裂片ニ互生シ、雄蕊ハ多數アリテ花弁ヨリ短シ。苗葉ヲトリ燻熟シ水ニ浸シ淘淨シ醬油ニテ調食シ以テ救荒ノ用ニ充ツ。

つちな、ぶくれうらうらトモ云フ。漢名翻白草。六七寸乃至尺ニ達スル小草ニシテ下部ノ葉ハ羽狀複葉ヲナシ、小葉ノ末ナルモノ大ニシテ本ナルモノ小。小葉ノ下面ハ純白色ヲ呈シ縁邊ニ齒牙アリ。且葉背并ニ莖ニ繊細白毛アリ。花ハ黄色、雌蕊多數、各一個ノ胚珠ヲ含ミ、花後乾果ヲ結ブ。塊根ハ皆小指ノ如クニシテ兩頭尖リ一窠ニ數枚アリ。赤皮白肉生食スベシ、味栗ノ如シ、故ニ名ク。小兒探リ食フ。

(25) をへびいちご

P. Kleiniana W. et A.

うつまたぐさ(古名)、をこへびいちご、さらんさう、さばなのさらんさう、いつはぐさ(伊勢)、さしひしろ(九州)等ノ別稱アリ。漢名蛇含、田野路傍ニ多ク生ズ。莖ハ軟質ニシテ長ク傾臥スル草本ナリ。根葉叢生、一柄ニ通常五個ノ小葉ヲ附クルヲ常トスレモ、時トシテハ六七葉ノ掌狀複葉ヲ作り又梢ニ至ルニ從ヒテ二三裂若クハ分裂セザル單葉ト變ズルモノアリ。完全ナル葉ハ殆ド五加葉ノ如ク小葉ハ蛇莓葉ヨリ狭長、



本ニ鱗様細小ノ數苞アリテ枝又一花梗ヲ出ス蛇莓花ヨリ小ニシテ一見委陵菜ノ花ニ似、實モ亦相類セリ。

面濃緑、背淡綠白色、春五月頃へびいちぢヨリハ少シク後レテ花アリ。葉初メ地ニ塌シテ高起スル一尺余、數葉ヲ互生ス。莖葉ノ多クハ蛇莓ノ如ク三小葉ヨリ成リ、ソノ

救荒用トシテ其葉莖果ヲ食用トス。

(26) みつばつちぐり

P. ternata (Max.) Makino.

近道山野ニ多キ小草ナリ。葉ハ一柄尺許、三個ノ小葉ヨリ成リ、蛇苔葉ニ似テ大、又白花ノ蛇莓ノ葉ニ似テ稍長大、且ツ剛ク、冬月凋マズ。莖ハ長クシテ傾臥シ、小葉ハ皆鈍頭ヲ有ス。冬月花實アリ。雌蕊ハ短毛ヲ具ス。根ハ初メ珠塊、後稍長シテ七八分ニ至ル。此部ヲトリ救荒時ノ食トス。

(27) わんす

Prunus Americana L. var. *Ansu* Max.

又からも(和名鈔)ト呼ベリ。漢名杏。落葉喬木ニシラ梅ニ近キ品種ナリ。幹高丈余、葉ハ廣楕圓形或ハ卵形ニシテ尖リ、梅葉ヨリ大ニシテ細鋸齒アリ、嫩葉ハ包旋ス。春日紅梅ニ次ギテ花アリ、花ハ殆ド無柄、單瓣帶紅白色ニシテ鷲梅ノ形ニ似テ較大、花後ニ葉ヲ生ズ。夏月果ヲ熟スレバ赤黄色、其肉、核ト分離シ易シ。

果實ハ味淡甘ニ微ニ酸澁ヲ帶ブ。或ハ生食シ或ハ梅實ノ如ク糖漬トシ、或ハ砂糖漬トシ、或ハ乾杏トナシテ冬日ノ用ニ供シ或ハ果膏トナシ種子ハ藥用ニ供ス。種類多シ。

(イ) うめわんす、又すわんす、漢名梅杏(時珍)、黄色ニシテ帶酸ナリ。
(ロ) もちわんす、漢名金杏。形大ニシテ黄赤色、味甘シ。
(ハ) しろわんす、漢名白杏。形大ニシテ黄白色、味美、上品ナリ。
(ニ) はなわんす、千瓣ノモノニシテ實ヲ結バズ。
(ホ) 大わんす、漢名肉杏。赤色ニシテ大ナリ。

成分

品名	水分	蛋白質	遊離酸	糖分	其他無窒素物	木材質	灰分
杏	八一、三	〇、四九	一、二四	六九、六	六、三五	五、三〇	〇、八三

△こぼはよくさしらしとやからるもの
物をばいはで花にのみ咲く
(新六帖)

杏花

唐 鄭谷

不學梅欺雪、輕紅照碧池、小桃新謝後、雙燕却來時、香屬登龍室、煙籠宿蝶枝、臨軒須貌取、風雨易離披。

(28) すもも

P. communis Huds.

又すうめ(播磨)ト稱ス。漢名李。人家ニ栽ウル落葉喬木ニシテ幹高二三丈ニ達ス。葉ハ長楕圓形或ハ倒卵狀長楕圓形ニシテ不齊ノ細鋸齒ヲ有シ春月梅ニ後レテ新葉ト共ニ三四ノ梗ヲ叢生シテ五瓣ノ白花ヲ開ク。瓣片ハ廣楕圓、萼ハ鐘狀五裂、淡綠色、雄蕊三十一莖アリテ長短不同、皆萼ヨリ生ズ、花心ニ雌蕊アリテ平滑、子房ハ黃色、柱頭分レズ。夏月果熟スレバ形圓クシテ梅ノ如ク通常赤色ニシテ光澤アリ。味酸甘ニシテ生食スルニ適シ又半熟ノモノヲ漬藏ス。其外乾果トナシテ貯ヘ、又果膏ヲ製シ又ハ酒精漬等トナシ、或ハ種々ノ糖果及ビ飲料醸造ニ用ヒ、嫩芽ハ救荒時ノ食ニ充ツベシ。

(イウらべにすもも)

一名わかすもも、漢名嘉慶

李(汝南國史)、果ノ内部深紅色ニシテ胭脂ノ如ク、形常李ヨリ大ナリ。

(ロ)しるすもも、近江ノ産古來名アリ。漢名白李

(時珍)、熟シテ帶黃白色ニ白粉ヲ傳ク。

(ハ)わをすもも、漢名青皮李(時珍)。熟シテ毛色

緑シ。

(ニ)どがりすもも、漢名中心李、果實ハ常李ヨリ

大ニシテ尖リ曲リテ鷹ノ嘴ノ如シ。熟シテ青白色、

味美ナリ。

ホ)ばたんきやう、どがりすももニ似テ果實ノ尖

曲ラズ、圓大ニシテ紅色ヲ呈ス。

(ハ)わせすもも、一名さもも、漢名麥李。五月頃

麥穂ノ秀ヅル時ニ熟ス。果實紅色ニシテ常李ニ比ス

レバ倍小ナリ。

●李をば胸腹つかへ口ねばり

氣の鬱するに少し用ひよ

●李をば食して毒にあたりなば

胡椒の粉をば白湯でのひへし

(29) もも

P. Persica S. et Z. var. *vulgaris* Max.

古歌ニみちよぐさ、みさふるぐさト訓メリ。漢名桃落葉喬木ニシテ幹高二三丈ニ達ス。葉ハ長楕圓狀披針形ニシテ鋸齒ヲ有シ、花ハ五瓣桃色ヲ常トシ春月李ト同時ニ花アリ。花絲ハ下部内曲シ然ル後ニ上部ハ外曲ス、單瓣ノ外、複瓣ノモノアリ、桃色ノ外、紅色、白色、斑等ノ花ヲ有スルモノアリテ品類甚ダ多シ。果ノ好キハ單瓣、淡紅色ノモノニ存ス。其果實ハ夏季ニ熟スルモノ秋季ニ熟スルモノ等アリ。大サ寸許ヨリ二寸余ニ至ル。

味甘酸、生食ニ宜ク、煮テ食フベク、塩ニ漬ケテ食フベク、糖藏シテ貯フベク、又乾製シテ食用ニ供スベシ殊ニ酸味強キ種類ハ砂糖煮トナシテ用フルト最ヨシ。嫩葉ハヨク煤デサハシテ救荒時ノ食糧ニ供スベシ。種類多シ。づばいもも、アモンドウ、びんべいもも、しだれもも、うつさいもも、さもも、しるもも、びんべいもも、けもも、ひたう、ふゆもも、さくもも、はさきもも、及ビ水蜜桃等アリ。今左ニ之ヲ記載スベシ(イ)びんべいもも、漢名日月星(秘傳花鏡)又、二色桃(洛陽花木記)、一花中、紅白瓣相交リ又ハ同

樹ニ紅白花ヲ開クモノヲ云フ。單瓣、千瓣アリ。

(ロ)しだれもも、漢名軟條桃。枝ノ下垂スル種ニ

シテ、單瓣、千瓣、紅白數品アリ。

(ハ)いつさいもも、漢名一歲桃。種子ヲ下シタル

年ニ花ヲ開キ、二年目ヨリ果實ヲ結ブ、土佐、紀伊

等ニ在リ。其枝叢生シテ喬木トナルコトナシ。

(ニ)さもも、漢名五月早桃。實早ク熟ス、なつも

も、又五月ももトモ云フ。

(ホ)しるもも、漢名銀桃。一名ヲりんごももト呼

ブ、又わせもも、なつももノ稱モアリ。實初綠色、

熟シテ白色、花大ニシテ白瓣綠萼ナリ。

(ハ)びんべいもも、漢名菊桃(廣東新語)、樹高丈

余、花瓣狭細ニシテ十二三并ビテ單瓣菊花ノ如シ、

故ニ菊桃トモ云フ、(他ニ同名アリ)、初メ淺紅色、

後ハ白色紅心ニシテ尋常ノ桃ヨリ後レテ開花ス。

(ト)けもも、漢名毛桃。花大ニシテ色淺シ。實大

ニシテ杏ノ如ク、外皮ニ毛茸アリ。

(チ)ひたう、漢名緋桃。花色深紅、和漢通名ナリ

單瓣、千瓣ノモノアリ。

(リ)ふゆもも、漢名十月冬桃。又、崑崙桃。和名

ヲ一ニかんもト呼ブ、十一月熟シ肉色赤シ。
(ハ)菊も、瓣廣クシテ尖リ重瓣ニシテ菊花ノ如ク色淺紅ナリ。

(ル)はくも、高一尺許ニシテ花實アリ。花小ク、千瓣ニシテ紅白雜リ、多葉都李ノ如シ。枝多クシテ掃帚ノ如シ。剛ニ栽ユレバ丈余ノ高ニ至ル。

(ヲ)上海水蜜柑、花形大ニシテ淡紅色ヲ呈シ、果ハ正圓形ニシテ微紅ヲ帶ビタル淡黄色ナリ。核ハ離レ難キ缺點アレドモ、色澤麗シク、味モ亦甘滋ニシテ恐クハ桃中ノ冠ナラム。

(フ)天津水蜜桃、果實偉大、卵形ニシテ肉色紅ヲ帶ビ、漿液稍少ケレモ、香味甘美ノ極良種ナリ。

(カ)アメンドウ、漢名壽星桃(汝南圃史)、古來からも、るども等ト訓メリ。支那ヨリ輸入セル莖四五尺、枝短ク葉ノ密生スル品種ニシテ葉ハ深緑、通常單瓣紅色ナリ。學名ヲ *P. Persica* S. et Z. var. *densa* Makino ト云フ。

桃ノ成分

△天の川岸へにもよや咲きぬらん
空さへ花の色に酔ひぬる
公朝

△みちとせになるてふ桃のことしより
花さく春にあひにけるかな
躬恒

△夕つく日さすや岡邊の桃の花
空もうつろふ色に見ゆつゝ
順徳院

△花の色のもよにはあらでみちとせに
咲くてふたねや仙人のやと
通勝

○桃の花水氣を除き小便を
利しつらき血もしづめこそすれ

○桃の葉を煎せし湯にて沐浴せば
夏の汗ばも直に去るなり

桃ノ成分

○桃の實を多く食へば腹もはり

程よく食へば顔色を増す

桃花

元 微之

桃花深淺處、似句深淺粧、春風助腸斷、吹落拍衣裳。

(31) づばS

P. Persica S. et Z. var. *Nectarina* Max.

又かたししも、くまも等ト呼ブ。漢名油桃。果實ノ外面ニ毛ナク、光澤アリテ山茶ノ果實ノ如シ。づばSもトハつばさもトノ轉訛セシモノナラム。あをづばト云ヘルハ色赤カラザル種ニシテ、漢名ヲ光桃(汝南圃史)ト云ヒ近江ノ名産ナリ。効用ハ桃ノ條ニ記載セリ

(32) にはうめ

P. Japonica Thunb.

漢名郁李。高四五尺ニ達スル落葉灌木ニシテ人家ニ栽植セラル。葉ハ廣披針形、嫩葉ハ摺合ス。花ノ概形梅ニ似テ小ク、白色ニ微紅ヲ帶ブヲ常トスレドモ、又

品種	水分	蛋白質	遊離酸	糖分	無氮素物	木纖維	灰分
外國産	八〇.〇	〇.六五	〇.三二	四.四七	一.七	〇.〇六	〇.〇六
同上	八四.九	〇.四	〇.六一	五.六	三.五	〇.〇三	〇.〇三

純白ノモノアリ、花甚ダ繁多ニシテ艶美ナリ。萼筒ハ倒圓錐形ニシテ其上部ハ五裂紅色ヲ帶ビテ外反シ、邊縁ニ腺毛アリ。雄蕊二十三莖許、白色黃筋、花心一雌蕊アリ白色平滑、頭分レズ。多ク二梗ヲ叢生シ梗長カラズ、其本ニ鱗片アリテ之ヲ圍繞ス。子房ニ隆起アリ四月上旬、葉ニ先チテ花アリ。果實ハゆすらうめニ似テ稍小、熟シテ赤色、味酸甘、生食スルニ適ス。にはぢくら、郁李ノ一種花ノ千葉ナルモノヲにはぢくら(多葉郁李)ト稱シ、果實ヲ結ブコナク、庭ニ栽エテ觀賞ニ供ス。

(33) うめ

P. Mume S. et Z.

和漢異名多シ、我邦ニテハむめ(万葉集)トモウメ(和名鈔)トモ云ヒ又このはな、はな、にはひぐさ、かせまぢぐさ、かぢみぐさ、かばへぐさ、みどりのはな、かばりぐさ、はつなぐさ、つけぐさ、いひなしのはなナドト和歌ニ訓メリ。漢名ハ梅ナレド、彼國ニテハ花魁(典籍便覽)、世外佳人、清友、清客(全上)、官長、羅浮仙子(共ニ事物異名)、東閣(尺牘雙魚)、水耕

(花曆百詠)、水姿、玉骨、自知春、香雪(共ニ事物紺珠)、水肌(留青新集)等ノ異名アリ。

暖帯ノ地ニ植エラル、落葉喬木ニシテ幹高二三丈、圓二三尺ニ達ス。樹皮ハ初メ帶緑赤黒色ニシテ光澤ヲ有シ後ニハ裂目ヲ生テ粗糲トナリ、好ミテうめのみとけ、もじとけ等ノ地衣類ノ附着スルコトナリ爲メニ白斑ヲ呈ス。葉ハ廣楕圓形或ハ卵形ニシテ其先長ク尖リ、鋸齒アリ、長サ二寸許、嫩葉ハ包旋ス。花ハ葉ニ先チ通常早春、百花ニ魁シテ開ク、瓣ニ單複アリ、色ニ紅白アリ、果ニ大小アリテ品種樹カラズト雖、花ハ殆ド無梗、實ハ圓クシテ大サ五分乃至一寸五分、梅雨ニ入りテ熟スルヲ常トス。

梅ノ種類

(イ)ふんおうめ、漢名鶯梅。一ニ肥後梅トモ云フハ豊後、肥後ノ名産ナルガ故ナラム。今ハ各地ニ甚多シ、樹性強剛ニシテ成長最早ク且豊産ナリ。通常花大ク淡紅重瓣、果ハ豊大ニシテ圓ク、核小ニシテ肉多ク、熟シテ淡赤黄色ヲ呈シ、赤褐色ノ斑点ヲ存ス、肉ト核ト善ク離ル、桃ノ如ク、甘酸ニシテ香美ナリ。梅干及ビヒヤビ等ヲ製スルニ最適ス。

モ久シク落チズ、故ニ常梅ノ名アリ、不時ノ生食ニ供ス。古來野州足利學校ノ庭前及ビ河州道明寺内ニアルモノ名アリ。

(チ)水仙ばい、花瓣六出、白クシテ形最大ニ香氣亦勝レリ。漢名六瓣梅。又、水仙梅ト云フ、和漢トモニ暖地ニ多シ。

(リ)はや咲の梅、漢名八朔梅、又、冬至梅トモ云フ。冬至已ニ花ヲ開ク、一名早梅(梅譜)是ナリ。

(ヌ)退場の梅、花紅ク六瓣、形小ニシテ尖リ、瓣毎ニ離レテ連ナラザル故ニ花戸ニテ斯ク名ク。

(ル)小川うめ、千瓣ニシテ小ク心凹ニシテ外瓣紅ニ、内ハ白ク紅點アリ。

(ヲ)わんすうめ、一名もちうめ、單瓣ニシテ色淺ク、杏花ニ似タリ。コノ梅ニ限り酸味ナク、味杏ニ似タリ、故ニ名ク。

子實ハ生食シ、砂糖煮トシ、火酒漬トシ、單ニ漬漬トシ、若クハ紫蘇ト共ニ搗藏シテ梅干トシ、或ハ梅醬トシ、熨斗梅ヲ製シテ食用トシ、或ハ鳥梅トナシテ薬用ニ供ス。

●梅干、實ノ入りタル梅ヲトリ、二三時間水ニ

口わをぢく、漢名綠萼梅。花戸誤リテ玉萼梅ト呼ブ。萼、嫩枝共ニ綠色ニシテ花瓣ハ純白、單瓣ノモノト重瓣ノモノトアリ

(ハ)さろんうめ、ニ二種アリ、實ざらん及ビ花ざらんナリ。みざらんハ漢名品字梅(泉南雜志)、ニシテ一花生三實但其實小不堪啖(秘傳花鏡)ト云フモノナリ、俗ニ八房ノ梅ト云フ、一花ノ蒂中ヨリ三四實ヲ生ズルヲ常トスレモ往々一蒂ノ内八實ヲ結ブモノアリ、但シ長ズルニ及ビテ落ルモノ多ク、熟スルモノハ只二三實ニ止ルモノアリ、コレ未熟ノ時觀ルベキモノナリ。

(ニ)はなざらん、漢名鶯梅。花一所ニ簇リ開クモノヲ云フ。或ハふたおうめト訓ミ、一蒂雙實ノモノヲ鶯梅ト稱ス。

(ホ)紅梅、千葉花紅ニシテ實大ナリ。越中梅トモ云フ。

(ヘ)の梅、漢名江梅。原野ニ生ズル單瓣ノ白花梅ナリ、香アリ、花ニ大小アレモ實ハ必小ナリ。漢名野梅(汝南圃史)ト呼ブモノト同一ナリ。
(ト)ふだん梅、一種晚熟ノモノナリ、果實熟スル

浸シ、梅一升ニ鹽三升ノ割合ニテ紫蘇ノ葉見ハカラヒ

ニ入レ、押ヲ掛クルナリ。漬ケテヨリ或三週間ヲ經バ晴天ノ日ニ取り出シテ莖ニナラベテ日光ニ晒シ、三四日斗リ乾シテ再ビ收ムベシ。

●梅酢漬、右ノ梅酢ニ大根、生姜、茗荷、筍、草石蠶ナド漬ケタルハ佳趣アリテ好シ、又梅酢ニ微ノ生ゼザルヤウニスルニハ芥子ノ粉ヲ布袋ニ入レテ浸ケオクベシ。

●青梅漬、梅實ノ未ダ黄熟セザルヲトリ、鹽水ニ浸シ少時ニテ引キ揚ケ、ヨキ酒ニ砂糖ヲ加ヘタル中ニ漬ケコムベシ。大抵梅百個ニツキ酒一升、砂糖百匁位ノ割合ナリ。又青梅ヲ塩漬ニシテ酒精ニ漬ケタルモ佳ナリ。

●熨斗梅、ヨク熟シタル梅實ヲトリテ桶ニ入レ蓋ヲナシテ一夜ヲ經テトリ出シ搗鉢ニテ擦リ潰シ核ヲ除キ、布袋ニ入レ絞リテ滓ヲ去リ、梅肉一升ナレバ砂糖百二十匁、葛粉四匁ヲ入レ、鍋ニ移シ文火ニカケテ砂糖ヲ入レ、又葛粉ヲ入レ攪キ廻シナガラ徐ニ練リ上ゲテ海キ箱ニ流シ堅メテ焙爐ニカクルナリ、スマシ羹汁ナドニ用フルコトアリ。

●甘露梅、青梅ノヨク熟セルモノヲトリわさび
 おろしニテ摺リ、布袋ニ入レテ絞リタルヲ平鉢ニ入レ
 テ乾シ適宜ニ切ルナリ、是モ羹汁等ニ用フ。又青梅ヲ
 鹽漬ニシテ屢々水ヲ換ヘ苦味ヲ去リ、砂糖蜜ニ浸ケオ
 キ鹽押ノ紫蘇ノ葉ニ包ミ、輕キ押ヲカケテ養ル。コレ
 ヲ甘露梅ト云フ。

●更砂梅、小梅ヲ鹽漬ニシテ干シタル核ヲ去リ
 種モ肉モ又鹽漬ノ紫蘇ノ葉ヲモ加ヘ、一ツニシテ細カ
 ニ叩キ交ゼ、砂糖ヲ入レテ練リ合スベシ。

●梅醬、十分ニ熟シタル梅實ヲ鹽漬ニナシテ押
 ヲカケ、水ノアガリタルトキ、取出シテ押蓋ニ當テ水
 氣ヲ絞リテ糖鉢ニテ摺リ砂糖ヲ加ヘ水蒸ニテ漉スベシ
 又一法アリ、梅干ヲ一日湯煮ヲナシテ鹽ヲ出シ、水氣
 ヲ絞リトリ、糖鉢ニテ摺リ、砂糖ヲ入レ水蒸ニテ漉シ
 火ニカケテ練ルナリ、其割合ハ梅實一升ニツキ砂糖三
 匁程ナリ。梅醬ハ酒毒ヲ解シ渴ヲ止ムルノ効アリ。

●梅干ノ砂糖煮、梅干ヲ湯煮シテ其湯ヲ棄テ更
 ニ水ヲ入レテ再ビ湯煮ヲナシ又其湯ヲ棄テ、而ノ後ニ
 水少シト砂糖トヲ入レテ煮上グルナリ。
 ●養梅、青キ少シモ傷ナキ梅（豊後梅ヲ最上ト

ス）ヲ撰ビ針ニテ所々ヲツキ立テタル上ニテ湯煮ヲナ
 シ其湯ノ煮立タザルヤウニ時々水ヲ加ヘ、後一日程水
 ニ漬ケオキ、砂糖ヲ煮詰メ鹽ヲ入レ、徐カニ煮上グベシ
 ●烏梅、梅實ヲ煮シテ乾シタルモノナリ、一名
 巢烟九助（藥譜）ト云フ。能ク收斂スレドモ多用スレ
 バ脾胃ヲ害スト云ヘリ。

梅熟者以火煎之爲烏梅、以鹽殺之爲白梅、其青者以
 糖和之作糖梅、以蒜和之爲蒜梅、或又杵白梅和以紫蘇
 作梅醬、汀州志云、汀人置梅銅盆水中、取出漬蜜爲青
 梅、漬甘草爲甘梅、邵武志云梅青者以糖和之爲脆梅、
 以蜜煎之爲綠梅。（汝南圖史）

○梅の實を多く食ふな齒を損じ
 筋をも傷め脾胃をろこなふ

○梅くひて齒をば損ずる事あらば
 胡桃をかめばすくなほるなり

○梅干は手足のいたみやはらげて
 酒毒をも解し中を安んず

○梅干は渴を止め痰も消し
 胸腹いたみ吐瀉するに吉

△梢をばよそにへたてし梅の花

かすむ方より匂ふ春風

爲世

△花にふる風につけても世にひるさ

めぐみをもよそに匂ふ梅かも

通村

△匂ひ來る空燒物を尋れば

かさねの梅のはかるなりけり

仲正

△むが宿のねこの梅のかた咲きて

梢の風ぞうす匂ひなる

爲家

紅梅

△君ならで誰にか見せむらめの花

いろをも香をも知る人ぞしる

友則

梅花

白玉堂前一樹梅、今朝忽見數花開、
 兒家門戸重々閉、春色何因得入來。

早梅

戎昱

薔薇科

廿三

一樹寒梅白玉條、
 追隨村路傍溪橋、
 不知近水花先發、
 疑是經冬雪未消。

月梅

吉嗣 拜山

乾坤何物尤清絕、
 數點梅花月一痕、
 當此月寒梅白夕、
 古來騷客幾消魂。

(34) こうめ

P. Japonica Thunb. var. var.glandulosa
 Max.

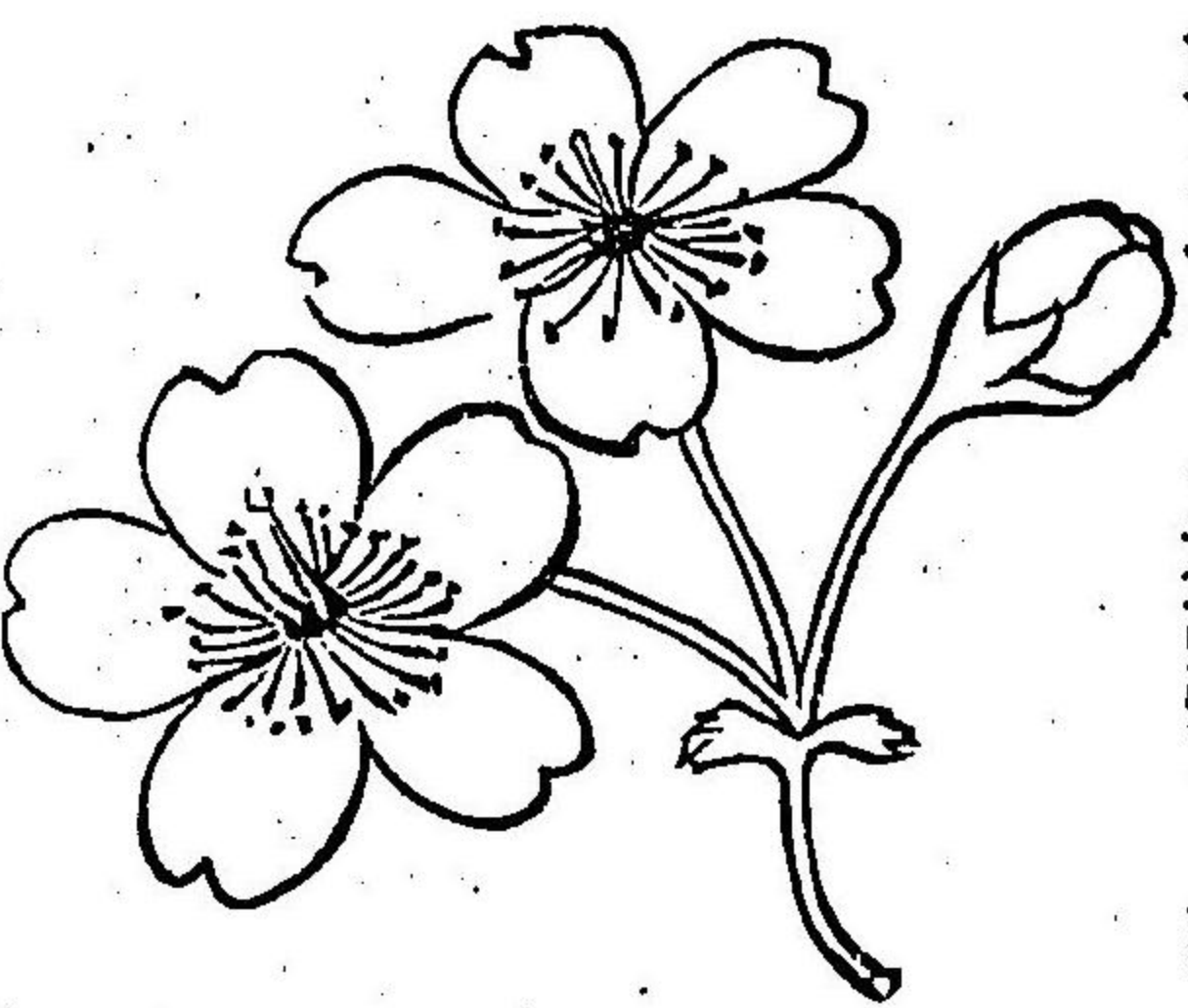
しなのうめトモ云フ。漢名消梅。樹葉ハ尋常ノ梅ニ
 異ラズ、花ハ單瓣ニテ白ク、下ニ向ヒテ開ク。實形正
 圓ニシテ全ク金柑ノ如ク、二三十個一枝ニ簇リ垂レ梅
 雨ニ臨メバ忽ニ早熟ス。

鹽藏、糖藏、又甘露梅トナシ其實ノ小ナルヲ賞シ、又
 藥用ニ供ス。

(35) やまめくろ

Prunus Pseudo Cerasus Lindl. var.
 spontanea Max.

漢名櫻ハ温帶ノ陽燥地ニ生ズル落葉喬木ニシテ本邦



到ル處ニ多シ。五十年エシテ幹高三丈五尺、周圍三尺トナリ、老大セルモノハ幹高六尺、圍八尺ニ達ス。樹皮ハ帶褐紫黑色ニシテ横理アリテ薄ク横ニ剥キ得ベク且ツ處々ニ褐黄色ノ皮目ヲ存ス。枝條ハ紅褐色ニシテ莖ニ比スレバ光澤強シ。葉ハ長楕圓ニシテ重鋸齒ヲ存シ、長三四寸、幅二三寸、先端尖リ、基部ハ鈍圓、平滑ニシテ深綠色、葉柄長サ寸許、互生、葉柄ノ上部ニ二個ノ蜜腺ヲ點附ス。托葉ハ早熟性、新葉ハ紅ヲ帶フ三月下旬ヨリ四月ニ涉リテ短枝上ニ無柄ノ小繖形ノ花梗ヲ生シ帶紅白色ノ花ヲ簇開ス。

。花ハ五瓣ニシテ圓徑七八分、萼筒ノ周圍ニ着生ス。果實ハ核果ニシテ球狀ヲ呈シ、熟スレバ紫黑色トナリ、肉薄クシテ味甘酸、内ニ圓キ核ヲ藏ス。而ソ山櫻ニハ吉野櫻ノ如キ毛ヲ新枝ニ有スルコトナシ。

櫻ノ名所ハ多クレド、大和ノ吉野山、山城ノ嵐山ハ最

著シキ勝地ニシテ武藏ノ小金井ニアルモノモ亦此類ナリト云フ。

熟シタル果實ハトリテ生食スベシ。花ハ鹽漬トナシテ貯ヘオキ、酒後又ハ浴後等ニ湯ニ入レテ飲料トスレバ香氣アリテ頗佳ナリ。葉ハ鹽漬トナシテ餅菓子ヲ包ムニコレ亦香氣アリテ甚ダ佳ナリ。果實ハ亦酒ヲ釀シ得ベシト云フ。

△敷島の大和心を人とはや
朝日に匂ふ山櫻花
本居 宣長

△春風は吹くとも散るな櫻花
花の心をわれになしつゝ
通 俊

△をそくとき梢もわかず春に今
なへて櫻の花ざかりかな
實 通

△いかに又またせしめて櫻花
咲く程もなく散らむとすらむ
宮内卿

遊芳野山
菅 茶山

一目千株花盡開、滿前唯見白皚々、近聞人語不知處、聲自香雲團裏來。

(36) よしのざくら

P. Pseudo-Cerasus Lindl. var. Sieboldi Max.
又ノ名ヲめめよしの、けさどざくらナドト稱ス。前種ニ似タル植物ニシテ、新枝ニ絨毛アリ。花ハ大形ニシテ繖房狀ニ簇生シ、果實モ亦較大ナリ。人家ニ栽植セラル。山櫻ノコトヲ吉野櫻ト呼ブコトアルハ其吉野山ニ存スルヲ以テナリ。墨堤ノ櫻ハ多ク山櫻ニアラズシテ此をめめよしのナリ、枝ブリ纖細ニシテ恰好ヨシ。

効用山櫻ニ異ナラズ。

(37) さくらざくら

P. Pseudo-Cerasus Lindl. var. hortensis Max.
一ニやハざくら、なはしろざくら、ぼたんざくら等ノ稱アルモノ皆此種ニ屬ス。平滑植物ニシテ花ハ往々重瓣ニシテ常ニ大形ナリ。新葉ハ通常紅ナラズ。全ク

栽培品ノミナリ。効用前者ニ異ラズ。

隅田櫻花

龜田 鵬齋

長堤十里自無痕、訝似澄江共月輝、飛蝶還迷三月雪、香風吹渡水晶村。

△Sにしへの奈良の都の八重櫻
けふ九重に匂ひぬるかな

伊勢 大輔

(38) ちやうじざくら

P. Cerasoides Max.
めじろざくら、こめざくらトモ云フ。山中ニアリ、山櫻ニ似タル植物ニテ、嫩葉ハ摺合シ、成葉ハ規則正キ欠缺狀鋸齒ヲ有シ、繖房狀ノ花序ヲ作ル。葉柄ニ毛アリ、葉形大ナラズシテ漸尖頭、萼筒ハ圓筒形ニシテ其縁邊ヨリハ三倍長アリ。

効用前者ニ異ラズ。

(39) うはみづざくら

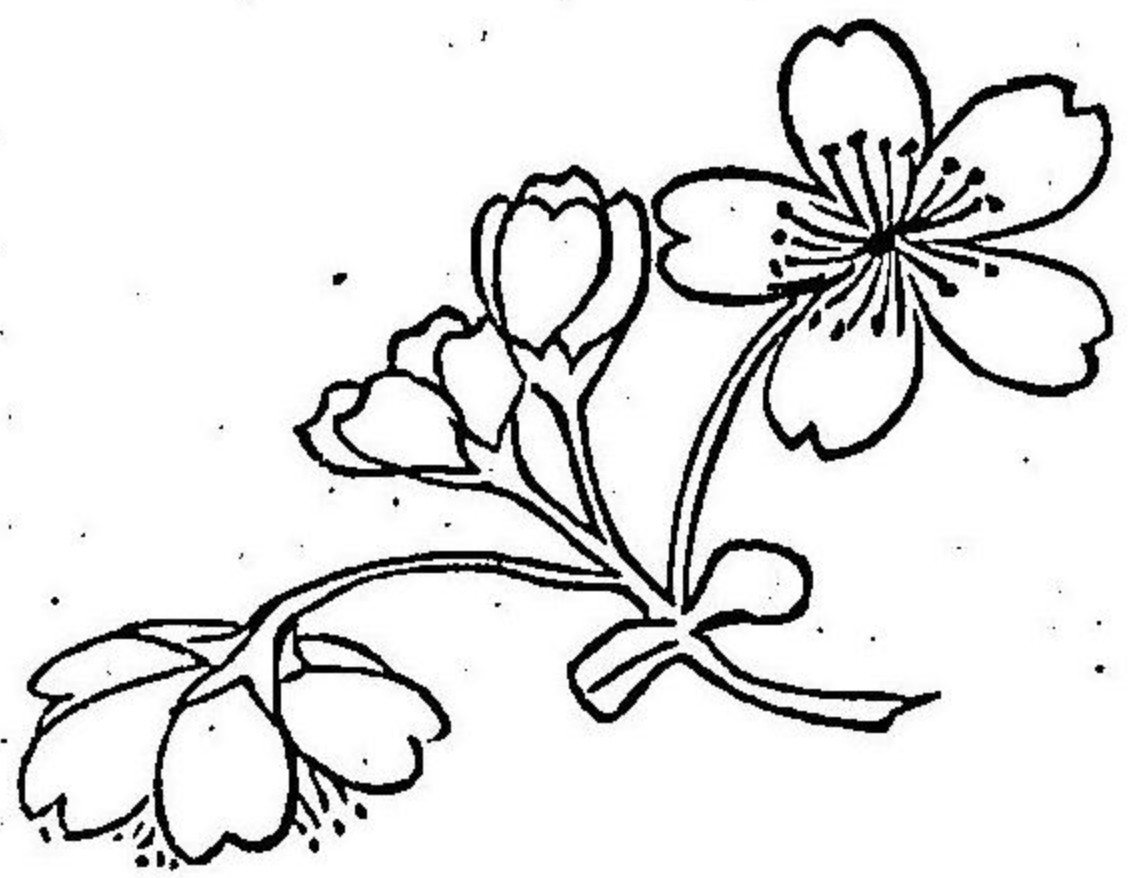
P. Grayana Max.
あんにな(北海道)、めづら(加賀、尾張)、はるさざ

くら(攝津)、ねづら(飛彈)、はうごうざくら、はるぶら、とざくら、ほうご、越後ぶな、こめざくら、さそざくら、こんごうざくら、あかき等ノ異名方言アリ。温帯ノ山野ニ生ズル落葉喬木ニシテ東北地方及ビ北海道ニ多シ。幹高二三丈、圍三尺トナリ、老大セルモノハ、幹高五丈圍五尺ニ達スルモノアリ。樹皮ハ帶緑黒色ニシテ厚キ木皮鱗ヲナシテ剝離ス。葉ハ楕圓形ニシテ鋭キ鋸齒ヲ有シ、長サ二寸許、五月頃枝梢ニ小白花ヲ總狀花序ニ攢簇シ、花ノ大サ三分許、五瓣ニシテ香氣アリ。花序ノ基脚ニ葉ヲ有シ、果實ハ楕圓ノ核果ニシテ其先端少シク尖リ、八月ニ至リテ成熟ス。熟スレバ紫黒色トナリ大サ三分許ニシテ豆粒ノ如シ。核ハ平滑ナリ。果ヲ搥藏シテ食ス、祇園ニテ酒ヲ薦ムルノ料トス、芳香雅味ナリ。

(40) ひがんざくら

P. Miqueliana Max.

春ノ彼岸ニ開ク故ニ名ク。花形小ニシテ葉ハ花ニ全ク後レテ生ズ。苞ハ宿存シ。花柱及ビ若キ枝ニハ毛ヲ



(41) ひめざくら

P. inoisa Thunb.

とざざくら(秩父)等ノ異名アリ。有毛植物ニシテ瓣瓜ハ白色或ハ淡紅ヲ帯ビテ開出ス。苞ハ宿存シ、萼筒ハ圓筒形ニシテ縁邊ノ長サニ二倍スレモ丁字ざくらノ如ク甚シカラズ。花柱及ビ若キ枝ハ平滑ニシテ葉ハ重鋸齒ヲ有ス。山中ニ普通ニシテ七八月頃果ヲ熟スレバ生食スルニ足ル。

(42) めどのはみづざくら

P. Padus L.

内地ノ高山及ビ北海道ニ生ズル植物ニシテ、葉ノ基

有ス。

効用普通ノ櫻ニ同シ。

脚ハ楔形或ハ圓形ヲナシ、花ハ比較的大ニシテ総狀花序ニ排列シ、みやまいぬざくらノ如クニ基脚ニ葉ヲ有ス。一見うはみづざくらノ如クナレモ彼ノ核ハ平滑ナルニ此モノハ核ニ皺ヲ有ス。効用前種ニ同マ。

(43) 5236

P. Pendula (Sieb.) Max.

樹ハ彼岸櫻ニ似ルモ枝長ク絲ノ如クニ垂下シテ花美ナリ。彼岸したれ、したれ彼岸トモ呼ブ。漢名軟條海棠(洛陽花木記)。葉ハ長楕圓形或ハ披針形ニシテ漸尖頭ヲ有シ、嫩葉ハ摺合ス。花ハ叢生シ萼筒ハ圓筒形、雌蕊ニ毛ヲ有シ、花柄ハ花ヨリ微ニ長キアリ或ハ殆ト同長ナリ。果ヲ結ブコト稀ナリ。

(44) みやまいぬ

P. Maximowiczii Rupr.

しろざくら、みやまいぬ等トモ呼ブ。温帯ニ生ズル落葉喬木ニシテ北海道ニ多シ。幹高三丈、周圍二尺ニ達シ、樹皮ハ帶褐紫黒色、幹枝ハ柔弱ニシテ滑澤、嫩葉



ハ摺合ス。葉ハ楕圓形ニシテ表面ハ淡綠色、裏面ハ赤褐色ヲ呈シ、重鋸齒ヲ有シ、先端細長ク、基部ハ楔形若クハ圓形ニシテ長サ二寸幅一寸五分許、托葉ハ披針

形ニシテ粗鋸齒ヲ有シ長寸許或ハ葉柄ヨリ短クシテ脱落性ナリ。六月葉腋ニ繖房狀ニ花ヲ開ク、花梗ハ細長ニシテ長サ三四寸アリ、大ニシテ著キ葉狀ノ花苞ヲ生ズ。萼筒ハ倒圓錐形ニシテ萼片ニ毛ヲ有シ、花瓣ハ倒卵形若クハ圓形ニシテ白色、實ハ七八月頃成熟シ長橢圓形ニシテ長二三分アリ。生食スベシ。

(45) *S. burgeriana* Miq.
P. Burgeriana Miq.

日光地方ニテハへつびりぞくらト呼ブ。温帯ニ生ズル落葉喬木ニシテ幹高二丈、圍二尺ニ達ス。樹皮ハ紫色ニシテ光澤ヲ有ス。花ハ四月(奥州ニテハ五月)ニ二三寸ノ軸ヲナシテ葉腋ヨリ出デ、繖狀花序ヲナシ其基部ニ葉ヲ有スルヲナシ。實ハ七八月頃成熟ス。帶黄色ニ熟シタル果實ハ味、杏仁ニ似タリ。搗藏シテ酒媒トナス。

△山陰に瘦さらはへる犬さくら
おひはなたれてひく人もなし

俊 頼

(46) *S. sibirica* L.

P. Sibirica Fr. Schum.

北海道ニテしらびト呼ブ。落葉喬木ニシテ幹高六丈

圍五尺ニ達ス。樹皮ハ帶灰褐黑色ニシテ裂目アリ。枝條ハ淡褐ヲ帶ブ。葉ハ橢圓形。長五六寸、幅二三寸、先端尖リ、基部ハ僅ニ心臟形、細尖ノ鋸齒アリ、表面綠色裏面淡色、葉柄一二寸、六月長サ五六寸ノ繖狀花序ヲ綴リ、其基部ニ葉ヲ有ス。花ハ小形ニシテ大サ三分許苞、托葉共ニ形同ジクシテ縁邊鋸齒狀ヲ呈シ、花梗ハ三四分。花冠ハ五瓣圓形、先端ニ鋸齒アリ。核果ハ先端少シク尖リ秋季ニ入り紫黑色ニ熟シ、核ニ皺ヲ有ス。

効用前者ニ同ジ。

(47) *S. sibirica* L.

ゆすら、ゆすらお、ゆりさん(大和)等ノ異名アリ漢名櫻桃(八間通志)、好ミテ庭際ニ栽ウル落葉灌木ニシテ枝條繁茂シ、幹高一丈ニ達スルモノアレニ二三尺ニシテ盛ニ花實ヲ着ク。葉ハ櫻葉ニ似テ遙ニ短小、皺紋鋸齒及ビ微毛アリ。春月葉ニ先チ梅花ニ似テ一層小ナル五瓣ノ白花ヲ開ク、但蕾ノ時ハ淡紅ナリ。果ハ六月頃葉間ニ紅熟ス、形球ノ如ク、大サ四分斗、光澤アリ、にはらめノ子ニ似テ熟スルヲ彼ヨリ早シ。

果實ハ甘酸多液ニシテ生食スルニ適ス。

(48) のいばら
Rosa multiflora Thunb.



のばら(仙臺)、かたら(出雲)、しろいばら、さかやにんせう、にんせうばら、こもちいばら(和泉)、しろいげ(長崎)、をんないばら、さくらいばら、まがりぐさ(備前)、あをぐさ(伯耆)、よめぐさ(美濃)、又單ニぐさ(讃岐)トモ呼ブ。漢名野薔薇。山野ニ自生シ、高五六尺ヲ過ギ、枝條繁延シ枝ニ刺多シ。春月新葉ヲ生ズ、葉ハ通常五個以上ノ小葉ヨリ奇數羽狀ニ形造ラレ、薔薇葉ニ似テ小ク、薄クシテ光ナク細キ鋸齒アリ有托、互生、五月頃枝梢毎ニ花ヲ開キ簇ヲナスヲ數寸ソノ大サ錢ノ如ク瓣端微ク凹ミテ櫻花ノ瓣ノ如ク、通常白色ナレ稀ニ紅ヲ帶ビ通常五瓣ナレ屢々變形ヲ有シ、頗芳香アリ。花序ハ圓錐形ナリ。果ハ管實ト稱シ紅熟シテ霜後尙存ス。

嫩葉ハ嫩葉ト共ニ養テ食フベシ。果實亦食フベク殊ニ魚毒ノ醉ヲ醒スノ効アリ。

(49) てりはのいばら

R. Wichuriana Oreg.

前種ニ似テ彼ヨリハ一層地ニ匍フノ体アリ。葉ハ差小ニシテ秦椒葉ノ如ク厚クシテ光アリ。花形微小、前

種ニ後レテ開花シ、花數少シ、且香氣高キヲ常トス。實ハ落霜^{ウレドキ}紅ノ子ノ如クニシテ微ク長ク、秋後紅熟シ春ニ涉リテ尙存ス。効用前者ニ似タリ。

(50) ふゆいちぢ

Rufus Buergeri Miq.

かんいちぢ、さんいちぢ(筑前)、とさしらす等ノ稱アリ。漢名寒莓。常緑匍匐莖ノ植物ニシテ林間、藪下等ノ陰地ニ自生ス。葉ハ互生、膜質ニシテ厚ク、或ハ圓形、或ハ差鈍缺細齒アリテ下面ニハ密生毛アリ、深綠色ニシテ冬モ凋^シムコナク、莖ノ平臥スル部分ヨリ往々根ヲ生シテ繁殖ス。夏末ニ至リ新生セル枝ニ五瓣白色ノ花ヲ開キ、後果ヲ結ベハ冬ニ至リテ赤熟ス。果實ヲトリ生食ス。

こばのふゆいちぢ、一名まるばふゆいちぢ、まるばいちぢ、つるいちぢトモ稱シ前者ニ似テ小ナリ、深山ノ喬木帯ニ生ズ。

(51) ながいちぢ

R. palmatus Thunb.

わはいちぢ、もみぢいちぢ、つるいちぢ、かないちぢ(和泉)、さがりいちぢ(伊豫、播磨、秩父)は、ろいちぢ(備後)等トモ云フ。山野ニ自生スル落葉亞灌木ニシテ莖高三五尺ニ達シ、叢生ス。莖葉共ニ刺多クシテ衣服ニカ、ル、故ニ懸鉤子(漢名)ト稱ス。葉ハ互生、形細長クシテ本ニ兩尖ヲ有スル如キモノアリ、ヤ、棘葉ノ如クニシテ三乃至五裂シ缺刻狀鋸齒ヲ有スルモノアリ。花ハ白色五瓣梅花ニ似テ微小、五月頃葉間ニ開花シ六月頃大サ五分許ノ黃實ヲ熟ス。果實ハ帶酸甘味ニシテ頗佳ナリ。

(54) たちいちぢ

R. crataegifolius Bunge.

ちんぢしばのいちぢトモ云フ。吾邦到ルトコロノ山地ニ自生スル直立灌木ニシテ朝鮮、及支那北部ニモ産ス。莖、葉柄、葉脈并ニ花梗ニ鉤刺アリ。葉ハ心臟狀ニシテ三裂シ、葉縁尖齒アリ、托葉ハ剛毛狀。花ハ夏月葉腋ニ出デ或ハ葉頭ニ頂生ス頂生スルモノハ略總狀ヲ呈ス。花ハ白色ニシテ凡五分許ノ徑アリ。瓣片籠形、

R. inaeus Thunb.

さいいちぢ、わづきいちぢ(秩父)、五月いちぢ(播磨)大かはいちぢ(備後)、こがねいちぢ(丹後)等ノ異名アリ。さいいちぢ(わはいちぢ)ノ一種ニシテ山中ニ自生ス。さいいちぢニ似タレド、葉ハ多ク三尖ニシテ其背白ク、花ヲ生ズル莖ハ短クシテ其部ニ叢生葉ヲ生ジ、葉縁齒牙ヲ帶ビテ剛毛狀ノ托葉アリ、花ヲ生ゼザル莖ニ於ケル葉ハ明瞭ニ三裂シ不等ノ齒牙ヲ有ス。花ハ小ニシテ白ク、實ハ熟シテ赤色、さいいちぢノ實ヨリ較小ク、味モ劣レリ。熟シタル果ヲトリ生食ス。

(52) びらふさいいちぢ

R. corehorifolius L. f.

前種ニ似タル灌木ニシテ五月下旬花アリ。花ヲ生ゼザル莖ニ於ケル葉ハ分裂スルコトナク、全形略三角狀ヲ呈シ、葉背天鵝絨^{ビロビロ}ノ毛ヲ密生シ、鋸齒ヲ帶ビテ托葉ヲ缺キ、花梗ハ一個ノ白花ヲ生ズ。熟シタル果實ヲトリ生食ス。

(53) さいちぢ

多雄薔。花後ノ果實ハ紅熟ス。いちぢ類中ノ極メテ強

狀ナルモノトナリ。

果實ヲトリ生食ス。

(55) くまいいちぢ

R. molifolius Sieb.

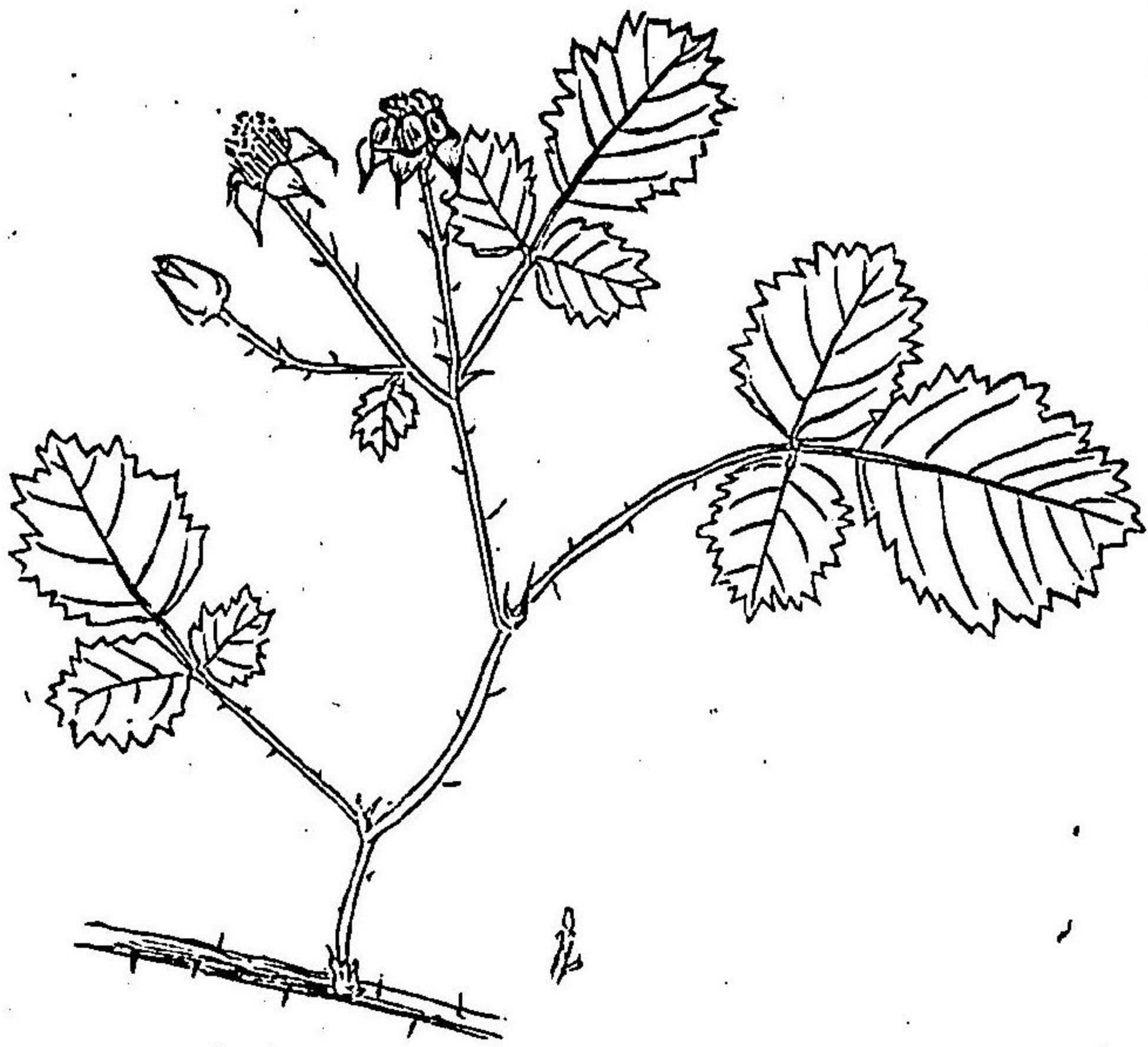
御所いちぢ、ふくろいちぢトモ云フ。落葉亞灌木ニシテ莖高五六尺ニ余リ、葉ハ潤大ニシテ徑三四寸、葉共ニ紫黒毛及ビ銳刺多シ。夏月枝梢ニ花アリ。花ハ五瓣白色、果形末端尖リ大サ二三分、熟スレバ俄ニ長ヲテ五六分トナリ、色赤クシテ中空シ、故ニふくろいちぢト云フ。熟果ヲトリ生食ス。

(56) はうろくいちぢ

R. Sieboldii Blume.

筑前ニテおにいちぢト呼ブ。莖ハ寒莓^{フナキハ}ノ如ク平臥シテ往々所々ヨリ根ヲ出ス。葉ハ革質ニシテ常緑、圓形ニシテ下面ニ密毛アリ。花ハ前年ニ生マタル葉ノ腋ニ生ジ、果實ハ熟シテ赤色ナリ。熟果ヲトリ生食ス。

(57) なはしろいちぢ



R. parvifolius L.

みづはさよ(播磨)はらさよ(秩父)あしくだし(筑前)うしす(播磨)さる(秩父)はくらん(秩父)

ご(豊前)、かくらん(志摩)、はくらん(志摩)、はくらん(志摩) (丹後)等ノ異稱アリ。漢名韓田薔。原野ニ多ク自生スル落葉蔓状ノ亞灌木ナリ。葉ハ三個ノ小葉ヨリ成リ鋸齒アリテ背白シ、五月枝頂ニ梗ヲ分チテ多クノ花ヲ開ク。花冠ハ帶紫色、大サ四分許、瓣片ハ萼ヨリ小ク脚細ク筒形ヲナシテ常ニ充分開展スルコトナク、萼ハ帶白綠色ニシテ先尖リ多毛ナリ、雄蕊ハ多數ニシテ紫紅色ヲ呈ス。六月實熟スレバ其色赤ク、一穂五六子ヨリ成リ、他莓ヨリ粒大ニシテ穂ハ小シ。其苗代時ニ成熟スルコトヨリなはしろいちごノ名アリ。熟果ハ甘酸多液ニシテ生食ニ佳ナルノミナラズ、又煮テ果膏ヲ製スベク、或ハ酒ヲ醸スベシ。

(58) くらん(志摩)

R. occidentalis L. var. japonicus Miyabe.

日光、駒岳、石槌等ノ諸高山及ビ北海道等ニ自生スル葉ハなはしろいちごノ葉ニ似テ遙ニ大ク、葉端ハ尖リ。莖モ遙ニ大ニシテ強剛ノ棘ヲ有シ、八月頃黒色ノ漿果ヲ熟ス。味甘酸ナリ。

(59) うしす(播磨)

R. phoenicolasius Max.

さる(秩父)はら(秩父)みやまなはしろ(秩父)もり(伊勢)みやま(あしくだし)た(みいちご)秩父(もり)いちご(伊吹)等ノ稱アリ。韓田薔ノ一種大ナルモノニシテ深山ニ自生ス。莖高六七尺、莖葉共ニ紫赤色ノ毛并ニ刺ヲ有スル状ヨリはら(秩父)いちごノ稱アリ。葉形モなはしろいちごヨリ大ニシテ背殊ニ白ク、花モ大ニシテ白シ、其葉背ノ白キヨリ又裏白莓ノ名アリ。秋月實ヲ熟スレバ深黄赤色ヲ呈シ、味甘酸ナリ。

(60) かつ(秩父)

R. trifidus Thunb.

たういちご、なんざんいちご、てふせんいちご、せんいちご(志摩鳥羽)、どのさんいちご(三河)等ノ異稱アリ。落葉亞灌木ニシテ其莖直立叢生シ、高五六尺ニ至リ、其葉ハ明ニ三乃至五裂シ、潤大ニシテ徑五六寸アリ、托葉モ亦大ナリ。莖葉共ニ刺ナシト雌葉柄ニ毛アリ。五六月頃、五瓣ノ白花ヲ開ク、花弁ハ萼ヨリ二倍長クシテ大ナル梅花ノ如シ。七八月ニ至リテ其果黄熟スレバ味甘酸頗生食スルニ堪エタリ。

(61) はら(秩父)

R. rosifolius Sm.

ふくら(秩父)美濃(美濃)はら(秩父)尾張(尾張)等ノ方言アリ。山野ニ自生スル草本ニシテ、一見くら(秩父)ニ似、高四五寸乃至尺余、葉ハ羽状複葉ニシテ、一葉ニ五小葉、七小葉、九小葉等ヲ附ケ刺多シ。花ヲ生ズル新枝ハ甚ダ短ク、花冠ハ白色、瓣片ハ略圓形、花後漿果ハ赤熟ス。味甘ニシテ微酸ヲ帶ビ、頗生食スルニ適ス。

(62) くら(秩父)

R. Thunbergii S. et Z.

やぶいちご、わけいちご、なへいちご(伊豫)になへいちご、かんすいちご(筑前)はそいちご(肥前)おばけいちご(播磨)等ノ異稱アリ。漢名蓬蘽。藪下、路傍等ニ多ク産ズ。葉ハ茶葉ニ似テ深綠色ヲ呈シ、皺ヲ有シ、莖ト共ニ毛多ク且刺アリ。花ヲ有セザル部ハ小葉ノ數多クハ五數ヨリ成レ、花ヲ生ズル枝ニ於ケル葉ハ三個ノ小葉ヨリ成ル。四五月頃枝毎ニ五出白



色梅花ニ似タルモノヲ開ク、大サ寸許、肥タルモノハ
瓣片七八出ニ變シタルモアリ。綠萼二重ニシテ五六月
頃ニ果實ヲ成熟ス、形蛇莓ノ如シ、莓中ノ最早ク熟ス
ルモノナルヨリわせいちと稱アリ。果實ヲトリ生食
スルニ味甘クシテ微酸ヲ帶ビ頗ル口ニ佳ナリ。

(63) われもかう

Sanguisorba officinalis L.

古名ヲえびすね(和名鈔)、しひものまくら(古歌
のつち)全上ト云ヒ、又だんいいたまき(近江)、
だんごばな(伊勢)、のこざりさう、のかへり(石見)、
さうりぐさ(日向)、ぼらすばな(和泉)、のこざりぐさ
(近江)、てんびさう(紀伊)、かるかや(奥羽)、等ノ方
言アリ。漢名地榆。吾邦諸州山野向陽ノ地ニ普通ナル
宿根草ニシテ莖高二四尺ニ達ス。葉ハ羽狀複葉ニシテ
鋸齒アリテ各小葉ハ楡葉ニ似テ較長ク、互生ス。葉間
毎ニ枝又ヲ分ツテ長クシテ其端ニ細花聚リテ筆頭菜ニ
似タル穗狀ヲ呈ス。花瓣ハ存セズ萼片ハ四アリ。雄蕊
ノ花絲ハ圓筒形ニシテ殆ド萼ト等長ニ、雌蕊ハ少數ニ
シテ萼筒内ニ位ス。秋月梢頭ニ花アリ、頂端ヨリ下端
ニ向ヒテ開ク。花色ハ白又ハ帶紫、帶紅等一ナラズ。
秋ノ草花トシテ觀賞セラル。嫩葉ヲ燂熟シ水ニ浸シ苦
味ヲ去リ能ク洗ヒ味噌ニテ調食シ以テ救荒ノ用ニ供
ス。

(64) たうちさう

S. obtusa Max.

前者ニ似タル草本ニシテ莖ヤ、短シ。花絲ハ多少扁
平ニシテ萼ヨリ甚ダ長ク、花柱モ亦萼ヨリ長ク、柱頭
ハ總ノ如クニ細裂ス。花序ハ前者ノ如ク、頂端ヨリ開
花ス。此種ハ前者ノ如クニ普通ナラズ。白山天池ノ附
近ニ産ズルモノ最有名ナリ。
葉ヲトリ燂熟シテ、救荒ノ糧ニ充ツベシ。

常用
救荒 飲食界之植物誌第六篇終



明治三十九年六月十三日印刷
明治三十九年六月十八日發行

定價金拾錢
郵税金貳錢

著作兼發行者

三重縣士族

梅村甚太郎

愛知縣額田郡岡崎町大字六供一雷戸

印刷者

小野治郎吉

愛知縣額田郡岡崎町大字傳馬三百番戸

印刷所

小野活版部

愛知縣額田郡岡崎町大字傳馬三百番戸



發行所

永昌堂

森周吉

名古屋市鍋屋町二丁目三十九番戸

(割引)

拾部以上 九錢五厘
三十部以上 九錢
六十部以上 八錢五厘
百部以上 八錢

(郵送料)

貳拾部マテ 拾錢 貳拾四拾マテ 拾五錢
四拾貳部マテ 貳拾錢 七拾部マテ 參拾錢
八十五部マテ 四拾錢 百五部マテ 五拾錢

